

麻機遊水地保全活用推進協議会

第 22 回総会

日時：2026 年 3 月 16 日（月）19:00～20:30

場所：協同組合静岡流通センター
静岡流通会館 2 階 大会議室

< 次第 >

1. 開会
 2. 報告事項
 - (1) 過去会議の議事概要 内訳：第 21 回総会 (資料 1)
 - (2) 令和 7 (2025)年度協議会決算見込み (資料 2)
 - (3) 令和 7 (2025)年度取組み報告 (資料 3)
 - (4) 令和 7 (2025)年度（後期）支援証明書の発行について (資料 4)
 - (5) 令和 7 (2025)年度麻機遊水地生物調査結果について (資料 5)
 - (ア) 植生調査
 - (イ) 鳥類調査
 - (6) 調査データの公開について (資料 6)
 - (7) 自然共生サイト支援制度活用に向けた進捗状況について (資料 7)
 - (8) 協議会会員へのヒアリングの結果 (資料 8)
 3. 議事事項
 - (1) 令和 8 (2026)年度協議会予算（案） (資料 9)
 - (2) 令和 8 (2026)年度取組み計画（案） (資料 10)
 4. その他
 - (1) 火入れ実施のお知らせ (資料 11)
 5. 閉会
- <参考資料>
- (1) 令和 7 (2025)年度 取組み報告 補足資料 (参考資料 1)
 - (2) 令和 7 (2025)年度 支援証明書発行団体 活動報告書 (参考資料 2)
 - (3) 令和 8 (2026)年度 取組み計画 補足資料 (参考資料 3)

麻機遊水地保全活用推進協議会 第 21 回総会 議事概要

(1)開催概要

本総会では、「令和 6 年度協議会決算報告（案）」、「監事の選任について」、「令和 7 年度予算補正（案）」および「自然共生サイトの登録申請について」の審議を行い、いずれも賛成多数により承認された。また、「令和 7 年度（前期）取組み報告」、「麻機遊水地フェスタの中止」、「静岡県環境ふれあい課・自然保護課の入会について」などの報告も行った。

(2)開催日時

2025 年（令和 7 年）10 月 27 日（月）19:00～20:30

(3)開催場所

静岡流通センター 2 F 大会議室

(4)開催内容

<報告事項>

- (1) 過去会議議事概要（第 20 回総会）
- (2) 令和 7 年度（前期）取組み報告
- (3) 麻機遊水地フェスタの中止
- (4) 静岡県環境ふれあい課・自然保護課の入会について

<議事事項>

- | | |
|-----------------------|--|
| (1) 令和 6 年度協議会決算報告（案） | ⇒ 挙手多数により承認 |
| (2) 監事の選任について | ⇒ 挙手多数により下記の者を選任
○河川海岸整備課長
○静岡流通センター地区代表 |
| (3) 令和 7 年度予算補正（案） | ⇒ 挙手多数により承認 |
| (4) 自然共生サイトの登録申請について | ⇒ 挙手多数により承認 |
- ① 自然共生サイトの登録の更新
 - ② 支援制度の応募申請

(5)意見・質問

<報告2:令和 7 年度(前期)取組み報告について>

質問	委員	協同組合静岡流通センターが負担した「麻機生きもの図鑑」の製本印刷費の金額はどのくらいかかったのか。
回答	委員	販売価格 550 円×3000 部の費用をそのまま支出している。

<議事4:自然共生サイトの登録申請について:>

質問	会長	スケジュールが資料に記載されているが、自然共生サイトへの登録申請が来年 1 月ごろで、その後に 1/2 の補助率の支援を受けられるということか。
回答	事務局	制度の詳細については、情報収集を行っているところである。今後、環境省などに問合せの予定。具体的な申請内容については、専門委員などにご相談しながら判断していきたい。令和 5 年度の自然共生サイト登録では「ミズアオイ」「タコノアシ」の植物 2 種の保全実績で登録している。柴揚げ漁といった文化継承や福祉支援の活動なども登録して、支援の対象にすることはできないか、環境省に確認する。そういったことも盛り込みながら登録申請に向けて検討して行きたい。

質問	委員	ベーター麻機部会が受ける支援としてはどんなものが考えられるか。例えば、園路の整備などに必要な予算などを協議会補助金とは別枠で予算を得られる可能性があるのか、それとも今後の研究課題なのか。
回答	事務局	今後の課題となるが、交付金による予算確保や、支援者マッチング制度で「企業から活動に人や寄付金を出したい」というニーズがある可能性もある。今後、麻機の各取組みにどういった制度が適用されるかは、会員の皆様と環境省にそれぞれ聞きながら考えていきたい。
コメント	委員	現在、協議会の補助金上限 20 万円をいただきながら活動しているが、今後、行政予算の不足から支援が頭打ちになる可能性もあると思う。そういったときに補完できる選択肢となるようであれば、大いに制度を活用して欲しい。頑張ってください。

<全体を通して:その他事項について>

質問	委員	<p>第4工区の大林道路側からの入口付近の道路について、周辺の会社と思われる車両の駐車場のよう利用されている。またトラックの荷台やプレハブも3年前から放置されている。</p> <p>かつて、不法投棄の車両が問題になった場所で、1台から始まり次々と不法投棄が続き、その処分に長い時間と税金が使われた。このままでは同じようなことが起きることを懸念している。</p> <p>役所からは以前に問題提起してから注意喚起の張り紙をしてもらったが、その後対処がなされず問題が続いている。大変だと思うが、問題が大きくなる前に、役所から監視と指導をお願いしたい。</p>
コメント	会長	<p>不法投棄を放置すると同じところに不法投棄がなされることは多々ある。不法投棄は処理費が高いので、事務局で何とか予算（行政ないし協議会予算）を工面して片づけて貰えたらと思う。</p>

コメント	委員	<p>11月12日（水）11:05~13:10に静岡流通会館で静岡北特別支援学校高等部の作業製品の販売会を行う。栽培班のつくる農産物などは1時間もしないうちに売り切れるほど人気がある。</p> <p>ご興味のある方はご参加をお願いしたい。</p>
------	----	---

コメント	委員	<p>令和8年1月18日（日）に柴揚げ漁を、東海大学水棲環境研究会の協力も得ながら実施する予定である。</p>
------	----	---

質問	委員	<p>ベートル麻機の福祉農園に初めてイノシシが入った。刈り取る前日に入り、刈り取った後は駆け回った足跡があった。またイノシシの影響かわからないが、最近はキジが見られないように思う。</p> <p>これらの件について、何かわかっていることがあったら教えてもらいたい。</p>
回答	専門委員	<p>確かに、キジは最近減少している。</p>

質問	委員	<p>取組み報告の話題で上がったナガエツルノゲイトウには、農薬はきくのか。ベートル麻機の福祉水田には未侵入だが、今後侵入した時に無農薬でやっていることが要因で蔓延の拠点となったら困ると考えている。</p>
回答	事務局 個別回答	<p>ナガエを狙い撃ちして完全に駆除できる農薬は開発されていない。現在政府や国立の研究機関を中心に研究開発が行われている。まずはこれ以上侵入させないよう、防除をしていくことが大切。</p>

質問	専門委員	<p>魚類と昆虫の専門委員の空席状況が続いている。見通しが立っているのかお聞きしたい。</p> <p>昆虫については、以前湯浅先生から提案があったと聞いている。魚類も前任の板井先生が抜けてから時間が経っている。誰でも良いというわけではないため、早めに後任を見つけていただきたい。</p>
回答	事務局	<p>事務局としても課題として認識している。まだ見通しは立っていないが、地元の大学の先生に声をかけたり、自然共生サイトの支援制度を活用し専門家マッチングを使うなどの選択肢があると思うが、今後どうしていくかは先生方や皆さんと相談して決めていきたい。</p>
コメント	会長	<p>専門委員は、誰でもいいということではない。麻機遊水地や麻機地域の自然をよく理解している方がよいと思う。</p>

質問	会長	<p>麻機のナガエツルノゲイトウは、いま増えているか。柿田川では、詳細はわからないものの減少しているという報告を聞いた。</p>
回答	委員	<p>麻機では増えている。</p> <p>遊水地の第3工区では、最初1年目には10mだった群落が、2年後には20m、3年後には30mのこんもりとした山となっている。今に第3工区の開放水面がすべて覆われてしまうのではという勢いで増えている。</p> <p>第2工区では学生がとても頑張っって何回か駆除をチャレンジしているが、ナガエだけではなくヒメガマも生えはじめ、その駆除方法や処分方法に苦慮する状況になっている（隙間のナガエを取り逃しなく駆除するのは難しいが、ガマと一緒に刈るとすべてが焼却処分となり膨大な労力が必要）。湯浅先生のお力をお借りしたい。</p>
コメント	会長	<p>麻機遊水地は巴川の上流にあるので、遊水地でのナガエの増殖は巴川全域に影響が広がる可能性につながる。大変な外来種なため、皆さんもそういった認識をぜひ持っていただきたい。</p>

コメント	会長	<p>これまで予算がつかなかった環境分野にも予算がつくようになった。少額でも補助をいただいて、取組みを進めることが大切。麻機遊水地は専門委員によるデータの蓄積や皆さんの熱心で活発な活動も多いため、非常に予算支援の望みが高い場所だと思う。</p> <p>麻機では「麻機遊水地保全活用行動計画」の中で、自然再生全体構想に基づく取組みを定めているので、これら目標・取組みの実現に向けて、自然共生サイトに基づく交付金や企業マッチングなどの支援制度をうまく取り入れていただけたらよいと思う。</p>
------	----	--

(6)参加者

■総会委員、顧問(23/26名)

No	区分	所属	氏名	出欠	
1	会長	東海大学 名誉教授	田中 博通	○	
2	学識経験者	静岡植物研究会 会長	湯浅 保雄	○	
3		日本野鳥の会静岡支部 副支部長	伴野 正志	○	
4		静岡大学教育学部 准教授	加藤 英明	欠	
5		国立環境研究気候変動適応センター副センター長	西廣 淳	Web	
6	地域代表	麻機学区自治会連合会長	杉浦 徹	○	
7		城北学区自治会連合会長	山崎 康司	○	
8		千代田東学区自治会連合会長	齋藤 健次	○	
9		竜南学区自治会連合会長	山崎 勝久	○	
10		流通センター地区代表	伊藤 哲	○	
11	自然再生部会	自然再生部会 部会長	後藤 昌徳	○	
12		麻機湿原を保全する会 会長			
12		自然再生部会 副部会長 麻機ウェットランドクラブ・麻機村塾 代表	石上 恭平	○	
13	各部会長・副部会長	地域活性化部会 部会長	上川 雄司	○	
14		協同組合静岡流通センター 専務理事 地域活性化部会 副部会長 あさはた緑地公園愛護会 会長	剣持 邦昭	○	
15	ペーテル麻機部会	ペーテル麻機部会 部会長	竹下 博実	○	
16		ペーテル麻機部会 副部長 (株)古川組	安藤 一整	○	
17	行政	静岡県	交通基盤部河川砂防局 河川海岸整備課 班長	貝沼 征嗣	○
18			静岡土木事務所長	伊東 信幸	○
19			健康福祉部政策管理局 企画政策課 専門主査	中西 隆之	Web
20			くらし・環境部参事 兼環境ふれあい課長	大川井 敏文	○
21			くらし・環境部環境局自然保護課長	寺澤 暢	○
22		静岡市	総合政策局企画課長	大村 博哉	欠
23			環境局環境共生課長	興津 卓信	○
24			保健福祉長寿局健康福祉部 障害福祉企画課長	寺田 和弘	欠
25			都市局都市計画部公園建設管理課長	小澤 慎司	○
26			建設局土木部河川課 総合治水対策担当課長兼河川係長	海野 彰	○
27	顧問	静岡市長	難波 喬司	—	

■事務局(9名)

No	所属	氏名	
1	静岡県	望月 一弘	
2		交通基盤部静岡土木事務所河川改良課	西村 昌史
3			諸橋 良
4	交通基盤部静岡土木事務所企画検査課	永井 友子	
5	静岡市	都市局都市計画部	杉村 則久
6		都市局都市計画部緑地政策課	土屋 智裕
7			杉山 公治
8			杉山 竜一
9			望月 美穂

■傍聴(民間:9名)

No	区分	所属	氏名
1	団体	協同組合静岡流通センター・麻機遊水地柴揚げ漁保存会	濁澤 直也
2		静岡県立静岡北特別支援学校	望野 亜里砂
3		十山(株)	平井 岳志
4		ペーテル麻機安東川ネットワーク	杉山 明
5		ペーテル麻機安東川ネットワーク	海寶 芳子
6		麻機ウェットランドクラブ	松浦 孝
7		麻機ウェットランドクラブ	村田 洋子
8		(株)環境アセスメントセンター	馬場 美也子
9		(株)環境アセスメントセンター	岡本 壮野

■傍聴(行政:2名)

No	所属	氏名	
1	静岡市	環境局 環境共生課	谷口 あずさ
2		都市局都市計画部 緑地政策課	山田 敏史
2	静岡県	交通基盤部 河川海岸整備課	山本 慶

(7)開催写真



令和7年度歳入歳出決算書

資料2

(歳入の部)

※R7.10総会
承認済

(単位:円、△印は減)

科目	令和7年度 予算額(A)	令和7年度 決算額(B)	比較 (A-B)	備考
負担金	14,000,000	14,000,000	0	
静岡県	7,000,000	7,000,000	0	
静岡市	7,000,000	7,000,000	0	
繰越金	260,378	260,378	0	
雑収入	1,000	20,015	19,015	預金利息
補助金返戻金	0	0	0	
合計	14,261,378	14,280,393	19,015	

(歳出の部)

※R7.10総会
承認済

(単位:円、△印は減)

科目	令和7年度 予算額(A)	令和7年度 決算額(B)	比較 (A-B)	備考
協議会活動経費	385,600	159,095	226,505	調査、資材、備品購入にかかる経費
謝金	138,000	11,500	126,500	調査報告に対する報償費
使用料及び 賃借料	14,000	0	14,000	
役務費	33,600	32,778	822	タブレット使用料
需用費	200,000	114,817	85,183	草刈機の修繕費 消耗品購入に係る費用
備品購入費	0	0	0	
補助金交付費	1,709,500	1,709,500	0	所属9団体に対する活動補助金
報酬費	414,000	345,000	69,000	協議会委員への報償費
委託費	11,290,900	11,072,600	218,300	事務局運営補助委託費(6,380,000) 遊水地植生調査委託費(4,565,000) 協議会受付補助委託費(127,600)
事務局運営経費	200,000	117,120	82,880	振込手数料、サーバーレンタル料
予備費	261,378	63,200	198,178	自然再生協議会全国会議参加費
合計	14,261,378	13,466,515	794,863	

※必要に応じて科目間の流用を認める

歳入合計 14,280,393

歳出合計 13,466,515

残額(翌年度繰越) 813,878

令和7年度 取組み報告

資料3

- ・協議会では「自然再生全体構想」と「麻機遊水地地区グランドデザイン」を踏まえた「麻機遊水地保全活用行動計画」※を策定
- ・今回はその実施項目のうち、**令和7年度の麻機全体の活動実施状況**、および**協議会の会員が実施した主だった取組み**を報告する

※ 具体的な目標や達成すべき事項は、参考1-1,2を参照

自然環境



地域特性

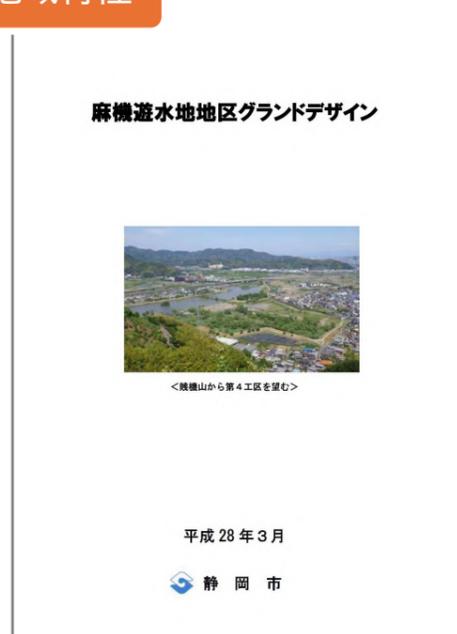
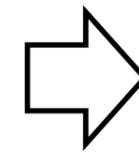


表.保全活用行動計画 実施項目一覧

目標	実施項目	頁			
1.良好な水環境の再生	(1)池沼部の水質・水位などの把握、水深の維持管理	①水位調査と適正な開放水面の確保	49		
		②水質調査	50		
		③水質改善実験	50		
	2.在来種の保全と生態系のバランスを保つ	(1)生物・植物調査	①生物・植物調査	51	
			②データ公開	51	
		(2)攪乱依存種の保全	①湿地の攪乱1	52	
			②湿地の攪乱2	53	
			③火入れ実験	54	
			④埋土種子実験と埋土種子の里帰り	54	
			⑤表土保全	55	
			⑥オニバスの保全	55	
			⑦ハスの保全	55	
		(3)雑木の抑制、雑木部の環境の維持	① 雑木の間引き	56	
(4)外来種駆除	①外来植物の駆除	57			
	② 特定外来生物の駆除	58			
	③ ミシシippiaアカミガメ、外来魚の駆除	59			
	④ 小池の外来魚駆除実験	60			
3.人と自然との持続的な関わりづくり	(1)環境学習の場としての活用方法の検討・実施	①自然観察会と今後を担う人材の育成	61		
		②自然観察園、自然観察コースの整備、管理	62		
		③自然博物館、生き物・パネル展示、出前講座	62		
		⑤ 医療福祉向け観察会	62		
		(2)水田の維持管理・利用	①水田の維持管理・利用	63	
			(3)利用に関するルール作り	①利用に関するルール作りとその周知	64
				(4)風俗・風習の継承	①風俗・風習の継承(追加)
		(5)清掃活動の実施・美化活動	①清掃活動	66	
			②周囲の美化活動	66	
		(6)安全管理の推進	①施設の改修	67	
			①堆肥作り	67	
		(7)持続的な資源活用のための検討・実施	②6次産業化	68	
			③竹灯籠作り、展示	68	
④ヨシの活用	68				
4.周辺とのネットワークづくり	(1)周辺の自然環境、各種施設とのネットワーク形成の推進	①関係機関との連携	69		
		(2)自然再生事業の情報発信及び収集と市民参加の促進	①広報活動	70	
		②各種イベント	70		



・麻機全体で見た活動状況
・協議会の主だった取組み
【抜粋】

表.今回の報告内容一覧

区分	報告内容
自然再生	① 観察会・環境教育の状況
	② 湿地の攪乱（サクラタデの保全）
	③ 湿地の攪乱（ミズアオイ等の保全）
	④ オニバスの保全活動（後期）
	⑤ ナガエツルノゲイトウ対策（後期）
地域活性化	⑥ 歴史文化の保全・継承の状況
	⑦ 柴揚げ魚の実演
	⑧ 古民具・農具の展示・解説・体験など
	⑨ 遊水地の魅力発信・イベントの状況
（医療・福祉） ベータル麻機	⑩ 医療・福祉関連イベントの状況
	⑪ 堤防・園路・広場の美化活動
民間連携の 取組み	⑫ 持続的な資源活用の推進
	⑬ 音声データに関する鳥類調査の試行

引用 | 麻機遊水地保全活用行動計画 改訂2版 P47,48

自然再生部会報告：① 観察会・環境教育の状況

1.活動概要

・2025年度は、麻機遊水地および周辺・関連施設で『自然観察会・環境教育』が年間63回*以上行われた

※協議会事務局で把握しているものに限る

2.行動計画での位置づけ

- 「人との自然の持続的な関わりづくり」に向けた取り組みとして、『自然観察会・環境教育』を推進。

5-5-4 人と自然との持続的な関わりづくり

かつての麻機の自然環境は、人と自然との関わりによって維持され現在に引き継がれてきた。この自然を後世に引き継いでいくために、自然観察会や環境学習会を開催に取組み、人と自然との関わり方や自然の魅力・大切さを多くの方に知ってもらい、市民の環境保全に対する意識向上を図る。

また、残された自然を守り後世に引き継いでいくための指導者の育成や、人と自然との持続的な関わりづくりのための仕組み作りに取り組んでいく。

将来的には、持続的な自然資源の活用や、地域経済の発展にも役立てていく。

■人と自然との持続的な関わりづくりの流れ

【ステップ1】

遊水地の自然環境の保全に対する市民意識の向上を図る。

【ステップ2】

遊水地の自然を後世に引き継いでいくための指導者の育成を図る。

【目標】

持続的な自然資源の活用と、地域経済発展のための活用を図る。

(1) 環境学習の場としての活用方法の検討・実施

①自然観察会と今後を担う人材の育成

<ステップ1>

麻機遊水地の自然環境の魅力を市民に知ってもらうことや、子どもたちの環境教育、次世代を担う人材育成、協議会委員のスキルアップを目的として、遊水地の自然環境を活かした各種観察会や、自然とのふれあい体験などを実施する。



環境学習会

<ステップ2>

保全活動への参加拡大や、残された自然を守り後世に引き継いでいくための指導者の育成を図る。



自然観察会

3.主な自然観察会・環境教育活動の様子



2025.10/18 サクラタデ観察会



2025.4/20,11/30
2026.1/18,3/15 おさんぽ観察会



2025.7/5,7/6 ハス・セタまつり



2025.4/29,5/25,6/29,7/27,9/28,11/30
2026.1/25,3/28 キツネノボタン部



2025.9/28 秋の植物観察会



毎月第4日曜 麻機定例探鳥会
写真引用元 || 日本野鳥の会静岡支部HP

自然再生部会報告：② 湿地の攪乱（サクラタデの保全）

1.活動概要

- ・麻機遊水地第4工区にて、**次年度のサクラタデ群落保全に向けた草刈り**を実施

2.行動計画上の位置付け

- ・第4工区の**サクラタデ群落とその環境の維持**が目標。

また、第4工区でも、サクラタデ群落が生育している箇所があることから、このエリアについても現状の環境を維持するための取組みを進める。



サクラタデ群落（第4工区）

引用 | 麻機遊水地保全活用行動計画 改訂2版 P53より

3.活動場所

- ・麻機遊水地第4工区 木道周辺



4.実施内容と主体

- ・実施内容 | 草刈り：7回（2026.1/3,1/11,1/12,1/27～30）
- ・実施団体 | 麻機湿原を保全する会

5.期待される効果

- ① 希少種の保全
 - サクラタデ群落の保全
 - 攪乱依存植物の保全（ミゾコウジュ・ホソバニガナ・ミクリなど）
- ② 植生遷移・樹林化の抑制
- ③ 遊水地の利用促進（心地よく散策できる環境の創出）



2026.1/3 除草直後の木道沿い



2026.2/18 除草エリアの春の芽吹き



2026.2/1 木道から観察できる野鳥

写真 | 除草箇所（希少植物の保全と心地よく散策できる環境整備を両立）

自然再生部会報告：③ 湿地の攪乱（ミズアオイ等の保全）

1.活動概要

- 麻機遊水地第3工区にて、**植生調査および次年度の希少種保全に向けた湿地攪乱**を実施

2.行動計画上の位置付け

- 第3工区の**ミズアオイ群落と攪乱依存種の生育環境の維持**が目標。

(2)攪乱依存種の保全

①湿地の攪乱1

<ステップ1>

第3工区で治水整備後にミズアオイ群落が発生した箇所、毎年人為的な攪乱を行うことにより植生遷移を抑制し、ミズアオイを中心とする攪乱依存種が生育できる環境を維持する。



ミズアオイ

湿地の攪乱

<ステップ2>

他の動植物への影響にも配慮しつつ、取組み範囲の拡大と、他の攪乱依存種や希少種の保全活動にも取り組む。

引用 | 麻機遊水地保全活用行動計画 改訂2版 P52より

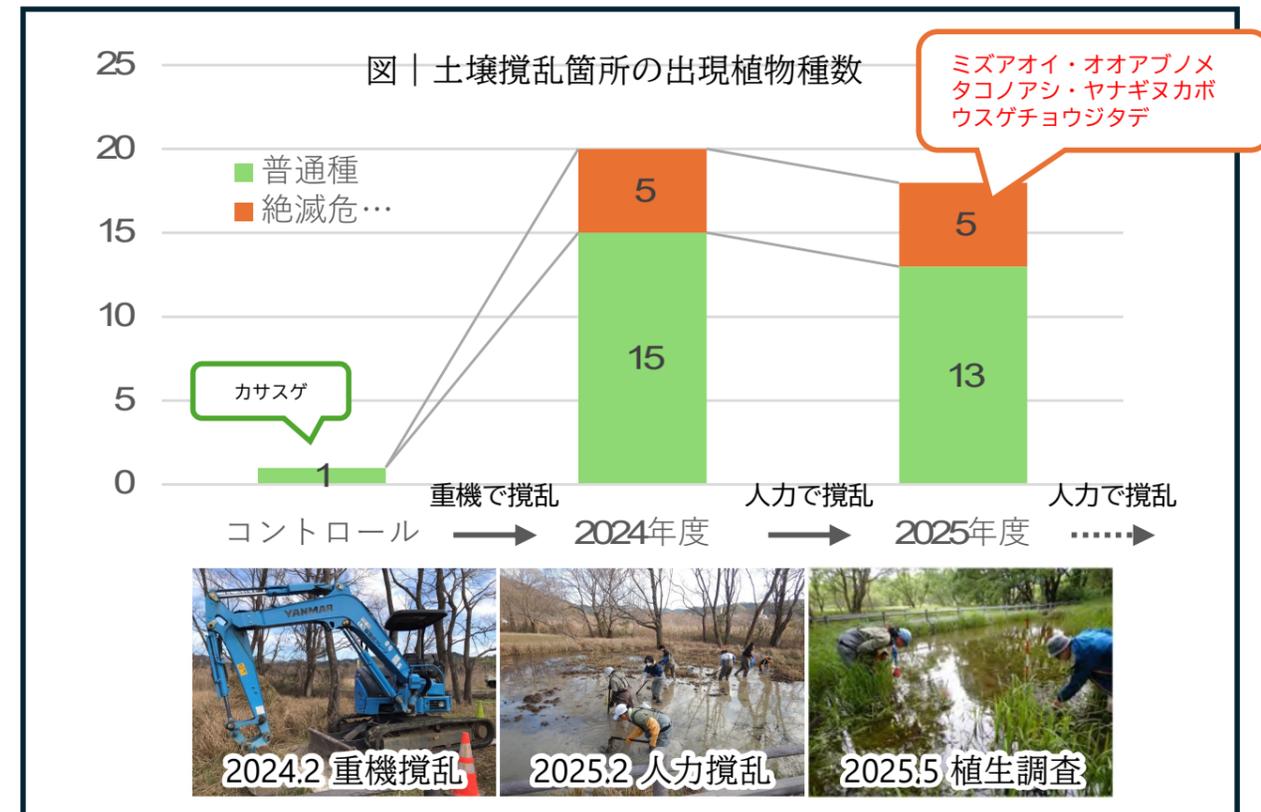
3.活動場所

- 麻機遊水地第3工区 ミズアオイ池周辺



4.実施内容と主体

- 実施内容 | 植生調査（5月・10月）、湿地攪乱（3月）
- 実施団体 | 麻機ウエットランドクラブ
- これまでの経緯 |
 - 2024年2月、3工区内のカサスゲ単群落を**重機で土壌攪乱**（静岡土木事務所河川改良課：重機の手配協力）
 - 2024年春秋に植生調査。**植物20種を確認**（絶滅危惧5種含む）
 - 2025年2月、同じ箇所を**人力で土壌攪乱**
- 今年度の成果 |
 - 2025年春秋に植生調査。**植物18種を確認**（絶滅危惧5種含む）
 - 2026年3月、**次年度に向けて、同じ箇所を人力で土壌攪乱**



※ 今年度の確認種の詳細な内訳は、参考1-11を参照

自然再生部会報告：④ オニバスの保全活動（後期）

1.活動概要

- ・絶滅危惧種「オニバス」の、**次年度に向けた保全活動（生息域外保全・生息域内保全）を実施**
- ・あさはた緑地の木道沿いに「オニバスの保全池」を整備
- ・生息域外保全地の「ふじのくに地球環境史ミュージアム中池」の整備・攪乱を実施

2.行動計画上の位置付け

- ・オニバスの生育箇所での保全、安定的にオニバスが出現できる環境の維持が目標。

⑥オニバスの保全

<ステップ1>

遊水地内には希少種のオニバスが生育しているが、一年草のため、環境条件の変化や他の植物の影響等によって出現しないことがある。

そのため、オニバスの生育箇所において、保全活動を実施する。



オニバス (第4工区)

<ステップ2>

オニバスが生育できる環境条件を把握し、安定的にオニバスが出現できる環境を維持する。

引用 | 麻機遊水地保全活用行動計画 改訂2版 P55より

3.活動場所

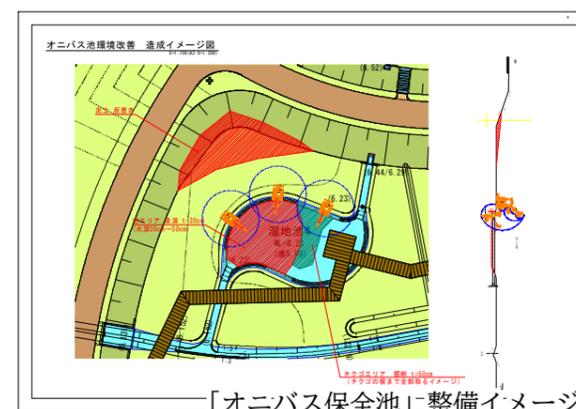
- ・麻機遊水地 第1工区、その他



4.実施内容と主体

- ・実施内容 | 来年度の保全活動に向けて下記を整備
 - > 域内保全：あさはた緑地 木道
 - > 域外保全：博物館,周辺小学校の中池
- ・実施団体 | 麻機ウエットランドクラブ
- ・協力団体 | 県立ふじのくに地球環境史ミュージアム、(一社) グリーンパークあさはた (あさはた緑地管理事務所、(株)藤浪造園)

5.主なオニバス保全活動の様子



自然再生部会報告：⑤ ナガエツルノゲイトウ対策（後期）

1.活動概要

- ・ 前期に引き続き、第2-1工区、第3工区に侵入している**特定外来生物「ナガエツルノゲイトウ」**の各種対策を実施
- ・ 産官学民の連携チームを組み、各活動での連携・協力・相談を行う
- ・ 「**静岡市SDGs連携チャレンジアワード『ユース賞』**」を受賞

2.行動計画上の位置付け

- ・ 分布把握および拡大の防止に向けた駆除・対策

②特定外来生物の駆除

<ステップ1>

特定外来生物の分布を把握し、分布拡大を防ぐための駆除及び対策を実施する。



ナガエツルノゲイトウの駆除

<ステップ2>

特定外来生物の根絶に向けた計画および手法の検討を行い、駆除を実施する。

引用 | 麻機遊水地保全活用行動計画 改訂2版 P55より

3.活動場所

- ・ 麻機遊水地 第2-1工区、第3工区、その他



4.実施活動の内容と主体

- ・ 実施内容 | 現場対策（駆除・拡散防止活動）
研究（ドローンモニタリング・生態研究）
調査（日常モニタリング, 広域分布調査(委託業務)）
広報（チラシ作成・配布, イベント出展）
その他（静岡市SDGs連携チャレンジアワード『ユース賞』受賞）
- ・ 実施主体 | 産官学民 麻機ナガエツルノゲイトウ対策チーム
静岡理工科大, 常葉大, 麻機ウエットランドクラブ, (株)環境アセスメントセンター, (株)自然回復, (株)静岡銀行, 昭和設計(株) など
- ・ 詳細 | 資料5「特定外来生物調査」(P29~32)を参照



2026.1/30 静岡市SDGs連携チャレンジアワード授与式



2026.2/28 しずおか川自慢大賞での発表



2025.12/16 浅畑川起点部での駆除



2026.2/23 第2-1工区加藤島エリアでの駆除

※ 表彰状(例)は、参考1-17を参照

地域活性化部会報告：⑥ 歴史文化の保全・継承の状況

1.活動概要

・2025年度は、麻機遊水地および周辺・関連施設で『歴史文化の保全・継承活動』が年間50回※以上行われた
※協議会事務局で把握しているものに限る

2.行動計画での位置づけ

- 「人との自然の持続的な関わりづくり」に向けた取り組みとして、『風俗・風習の継承』を推進。

5-5-4 人と自然との持続的な関わりづくり

かつての麻機の自然環境は、人と自然との関わりによって維持され現在に引き継がれてきた。この自然を後世に引き継いでいくために、自然観察会や環境学習会を開催に取組み、人と自然との関わり方や自然の魅力・大切さを多くの方に知ってもらい、市民の環境保全に対する意識向上を図る。

また、残された自然を守り後世に引き継いでいくための指導者の育成や、人と自然との持続的な関わりづくりのための仕組み作りに取り組んでいく。

将来的には、持続的な自然資源の活用や、地域経済の発展にも役立てていく。

(4) 風俗・風習の継承

① 風俗・風習の継承

<ステップ1>

現在も引き継がれている「柴揚げ漁」や「沼のぼあさんの伝説」、麻機地域の風俗・風習を後世に引き継ぐとともに、麻機地域の魅力を高めていく。



柴揚げ漁



沼のぼあさんの伝説の紙芝居



沼のぼあさんの伝説の演劇

<ステップ2>

遊水地で採取した植物を、お盆ござ、茅の輪、菅笠等で活用しているため、これらの文化を継承していくための取り組みや、伝統漁具や漁法の継承のための連携を図る。



菅笠用のカサゲの採取



採取したカサゲで作成した菅笠



盆ござ用のマコモの採取

引用 | 麻機遊水地保全活用行動計画 改訂2版 P61,64より

3.主な歴史文化の保全・継承活動の様子



2025.11/15 柴揚げ漁 (柴入れ)



2026.1/18 柴揚げ漁(体験する大学生・小学生)



毎月第13日曜
あさはた納屋オープンデー (古民具解説)



毎月第13日曜
あさはた納屋オープンデー (昔の遊び体験)



2025.7/5 「沼のぼあさん」紙芝居読み聞かせ



2025.7/5 古民具体験「機織り機」

※ 開催イベント一覧は、参考1-5,6に記載

地域活性化部会報告：⑦ 麻機遊水地柴揚げ漁保存会

1.活動概要

- ・麻機遊水地に室町時代から伝わる**伝統漁法『柴揚げ漁』の実演・継承の取組みを実施。**
- ・「南沼上柴揚げ漁保存会」を継承し、(協)静岡流通センターによる支援を基に続けている。

2.行動計画での位置づけ

- ・「柴揚げ漁」を後世に引き継ぐ
- ・麻機地域の魅力を高める

(4) 風俗・風習の継承

① 風俗・風習の継承

<ステップ1>

現在も引き継がれている「柴揚げ漁」や「沼のぼあさんの伝説」、麻機地域の風俗・風習を後世に引き継ぐとともに、麻機地域の魅力を高めていく。



引用 | 麻機遊水地保全活用行動計画 改訂2版 P64より

3.活動場所

- ・麻機遊水地 第3工区



4.実施内容と主体

- ・実施内容 | 柴入れ(2025.11/16)、会場準備(2025.12/7,1/17)、柴揚げ漁 (2026.1/18)
- ・実施主体 | 麻機遊水地柴揚げ漁保存会、(協)静岡流通センター
- ・協力団体 | 東海大水棲環境研究会、昭和設計(株)
- ・活動成果 | 継承：60人（一般参加 | 約50人、柴揚げ漁体験 | 約10人）
漁獲：10種類、120匹



浅畑沼の冬の風物詩

「柴揚げ漁」

浅畑沼の冬の風物詩となっている、伝統的漁法「柴揚げ漁」を下記のとおり開催することとなりました。昔の漁を再現するとともに、浅畑沼の自然の素晴らしさを皆様にご紹介できたらと思っております。ご興味のある方は是非、ご参加いただけますようよろしくお願い致します。お魚いっぱいです！

令和8年1月18日(日)開催

*雨天の場合は即座に1月25日(日)開催

時間	9:00~11:00
申込み	お申込み不要、参加無料
場所	静岡市野丈(麻機遊水地第3工区内、ヘリポート西側)
内容	柴揚げ漁 (体験・観察) 沼の生き物展示 沼の生き物展示 沼の生き物展示

お問合せ先 麻機遊水地柴揚げ漁保存会(協同組合静岡流通センター事務局内) | 担当 滝澤
TEL: 054-263-2000 FAX: 054-263-2004 HP: <http://www.shizuokanyutsu.or.jp>



※ 今年度の確認種の詳細な内訳は、参考1-12を参照

地域活性化部会報告：⑧ 麻機の歴史・古民具の展示・解説・体験など

1.活動概要

- ・あさはた緑地内の「あさはた納屋」に収集した麻機の古民具・農具の展示・解説・修繕・体験
- ・「麻機歴史講座」を年3回のシリーズ開催

2.行動計画での位置づけ

- ・麻機地域の風俗・風習を後世に引き継ぐ
- ・麻機地域の魅力を高める

(4) 風俗・風習の継承

① 風俗・風習の継承

<ステップ1>

現在も引き継がれている「柴揚げ漁」や「沼のぼあさんの伝説」、麻機地域の風俗・風習を後世に引き継ぐとともに、麻機地域の魅力を高めていく。



柴揚げ漁



沼のぼあさんの伝説の紙芝居

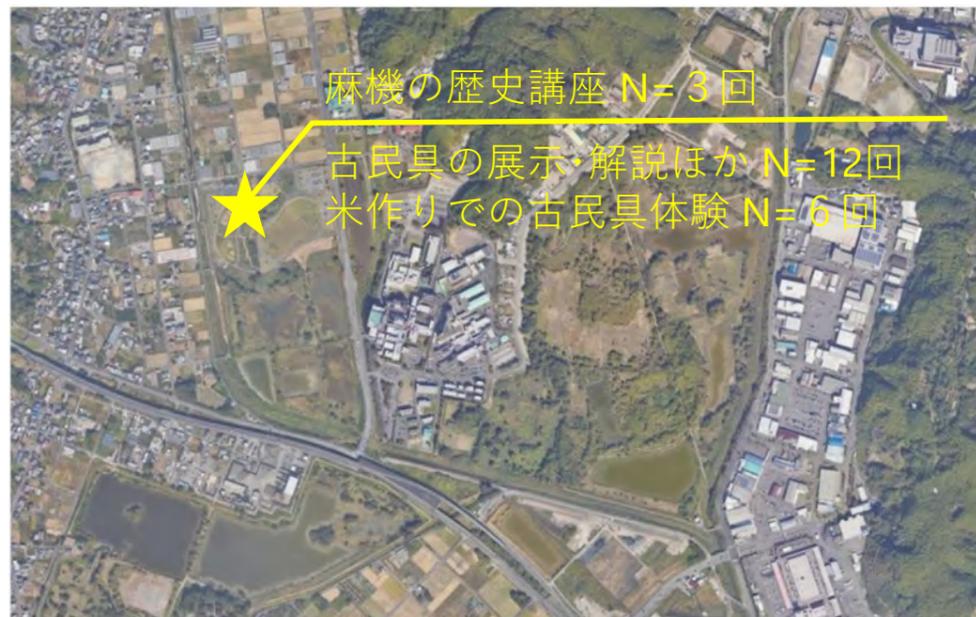


沼のぼあさんの伝説の演劇

引用 | 麻機遊水地保全活用行動計画 改訂2版 P64より

3.活動場所

- ・麻機遊水地 第1工区



4.実施内容および主体

- ・実施内容 | あさはた納屋オープンデー(毎月第1,3日曜)
麻機歴史講座(2025.4/27,6/22,9/21)
古農機具体験(あさはた緑地「米部」活動日)
「沼のぼあさんの伝説」の伝承 ほか
- 実施主体 | 麻機村塾
- 協力団体 | (一社)グリーンパークあさはた、西奈おはなし原っぱ



2025.7/5 麻機の歴史解説



2025.7/5 機織り体験



2025.4/27,6/22,9/21 麻機の歴史講座



毎月第13日曜
あさはた納屋オープンデー

麻機の歴史講座 part2

— 年表から麻機を考える —
鎌倉、室町時代を経て江戸・明治の出来事
麻機の歴史と一緒に考えてみませんか?

麻機歴史年表

古墳時代 (約前500年～400年) 古墳群、石室(石室群)の発掘調査、麻機の遺跡(石室群)の調査

中世 室町時代 (1332～1573年) 室町幕府の成立、室町幕府の没落、室町幕府の没落、室町幕府の没落

近世 江戸時代 (1603～1868年) 徳川幕府の成立、徳川幕府の没落、徳川幕府の没落、徳川幕府の没落

現代 昭和時代 (1926～1989年) 昭和天皇の即位、昭和天皇の即位、昭和天皇の即位、昭和天皇の即位

令和時代 (2019～) 令和天皇の即位、令和天皇の即位、令和天皇の即位、令和天皇の即位

日時：令和7年6月22日(日) 9:30～11:00

場所：あさはた緑地公園 センターハウス会議室

対象：どなたでも20名

参加費：300円(資料代他)

申込・問い合わせ：あさはた緑地管理事務所
054-295-5165 (受付時間 9:00～17:00)

主催：麻機村塾 <麻機遊水地保全活用推進協議会>
協力：(社)グリーンパークあさはた

地域活性化部会報告：⑨ 遊水地の魅力発信・イベントの状況

1.活動概要

- ・2025年度ラジオ出演回数：8回（S-Wave 6回,K-MIX 2回）,
- ・2025年度は、麻機遊水地および周辺・関連施設で『地域活性化のイベント』が年間47回*以上行われた ※協議会事務局で把握しているものに限る

2.行動計画での位置づけ

- ・遊水地の取組みや魅力の発信、参加者の拡大、市民による利活用の促進のため、HPやメディアを通じた情報発信や地域の特色を活かしたイベントを推進。

(2) 自然再生事業の情報発信及び収集と市民参加の促進

① 広報活動

<ステップ 1>

麻機の自然環境及び自然再生事業について、ホームページや広報紙などにより情報発信や収集を行い、市民に対する遊水地の取組みの認知度を高める。



協議会ホームページ 協議会の facebook

<ステップ 2>

遊水地の自然や取組みに興味を持ってもらい、参加者の拡大を図るとともに、県内外からの来訪者の拡大を図る

② 各種イベント

<ステップ 1>

市民や障がい者、高齢者等が気軽に遊水地の自然と触れ合ったり、遊水地の自然の中で様々な取組みを体験できるように、各種イベントを実施する。



遊水地フェスタ 遊水地フェスタ 遊水地フェスタ

沼フェスタ 沼フェスタ 桜祭り

<ステップ 2>

各種イベントを通じて、遊水地の魅力を感じてもらい、協議会参加者の増加を目指す。さらには広域からの集客もを行い、イベント参加費等を得て協議会の活動費として活用する。

引用 | 麻機遊水地保全活用行動計画 改訂2版 P70より

3. 主な広報活動・イベントの様子



第11回
遊水桜まつり



令和8年2月28日(土) 9時30分～
雨天順延 3月1日(日)

場所：あさはた緑地公園

地元特産品販売 … 青空マルシェ(センターハウス前)
麻機太鼓保存会 … 太鼓演奏(センター広場)

主催：麻機学区自治会連合会
協賛：あさはた緑地公園愛護会、麻機緑地保全活用推進協議会、麻機地区社会福祉協議会、麻機地区民生児童委員協議会、麻機村塾、静岡市地域総務課、グリーンパークあさはた

※ 開催イベント一覧は、参考1-7,8に記載

ベーター麻機部会報告：⑩ 医療・福祉関連イベントの状況

1.活動概要

・2025年度は、麻機遊水地および周辺・関連施設で『医療・福祉関連イベント』が年間33回※以上行われた ※協議会事務局で把握しているものに限る

2.行動計画での位置づけ

- ・市民、障がい者、高齢者等が、遊水地の自然と触れ合ったり、遊水地の自然の中で様々な取組みを体験できるように、各種イベントを実施を推進。

(2) 自然再生事業の情報発信及び収集と市民参加の促進

① 広報活動

<ステップ1>

麻機の自然環境及び自然再生事業について、ホームページや広報紙などにより情報発信や収集を行い、市民に対する遊水地の取組みの認知度を高める。



協議会ホームページ 協議会の facebook

<ステップ2>

遊水地の自然や取組みに興味を持ってもらい、参加者の拡大を図るとともに、県内外からの来訪者の拡大を図る

② 各種イベント

<ステップ1>

市民や障がい者、高齢者等が気軽に遊水地の自然と触れ合ったり、遊水地の自然の中で様々な取組みを体験できるように、各種イベントを実施する。



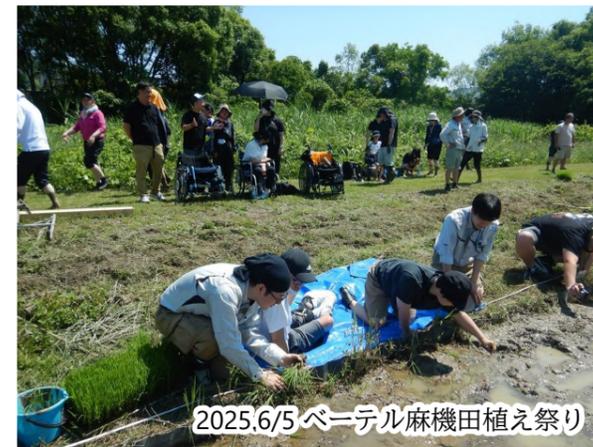
遊水地フェスタ 遊水地フェスタ 遊水地フェスタ

沼フェスタ 沼フェスタ 桜祭り

<ステップ2>

各種イベントを通じて、遊水地の魅力を感じてもらい、協議会参加者の増加を目指す。さらには広域からの集客も行き、イベント参加費等を得て協議会の活動費として活用する。

3. 主な広報活動・イベントの様子



静岡北特別支援学校高等部 作業製品販売会!

場所: 流通会館2F 大会議室(西区流通センター2-1)

日にち: 11/12(水)11:05から13:10まで ※雨天の場合は11/13(木)

★静岡北特支では、麻機の遊水地の美しさを伝えること、自然を守ることをコンセプトにして、「麻道(あさかつ)」に取り組んでいます。

<p>【革工芸班】</p> <p>名入れ・コインケース 500円</p> <p>印鑑ケース 400円</p>	<p>【印刷班】</p> <p>印刷用紙の『よし紙』をふんばんに変った製品です!!</p> <p>多色メモ帳 100円</p> <p>のち書 150円</p> <p>メッセージカード 100円</p>	<p>【木工班】</p> <p>マウスパッド 300円</p> <p>コースター 100円</p> <p>ポストカード 立て 200円</p> <p>れんこん模焼き 500円</p>
<p>【栽培班】</p> <p>二十四日大根 小のび 200円</p> <p>【工芸班】</p> <p>トランプ 500円</p> <p>巾着類 200円</p> <p>巾着類 250円</p> <p>帽子付 20円</p>	<p>「わたしは、麻道キャラクター『あさ・あかつ』です。ゆるい気持ちでみんなと遊んでください。ぜひご来場ください。」</p> <p>自分たちで作った麻道グッズ、麻道キャラクターグッズを販売しています。ぜひご来場ください。</p>	

2025/11/12 静岡北特別支援学校高等部 作業製品販売会



第21回 静岡県立中央特別支援学校校外作品展

きらめく個性の作品展

第2期

令和7年12月6日(土)～12月12日(金)

静岡市あさはた緑地交流広場 管理事務所

2025/12/6～12/12 静岡県立中央特別支援学校校外作品展 『きらめく個性の作品展』 @あさはた緑地センターハウス

ベーター麻機部会報告：⑪ 堤防・園路・広場の美化活動

1.活動概要

・第3工区内を周辺医療福祉施設や一般市民が散策できるよう、堤防・園路・広場を整備している。

2.行動計画上の位置付け

②周囲堤の美化活動

<ステップ1>
市民や病院の入院患者さんが気軽に堤防上を散策できるように、堤防除草や花壇の設置などの美化活動を行う。
また、地域の方との交流や連携のための場としての活用を図る。

<ステップ2>
地域が連携し、年間を通じて堤防上を楽しく散策できるように管理する。
それによって、市民や病院患者さんの健康増進を図る。

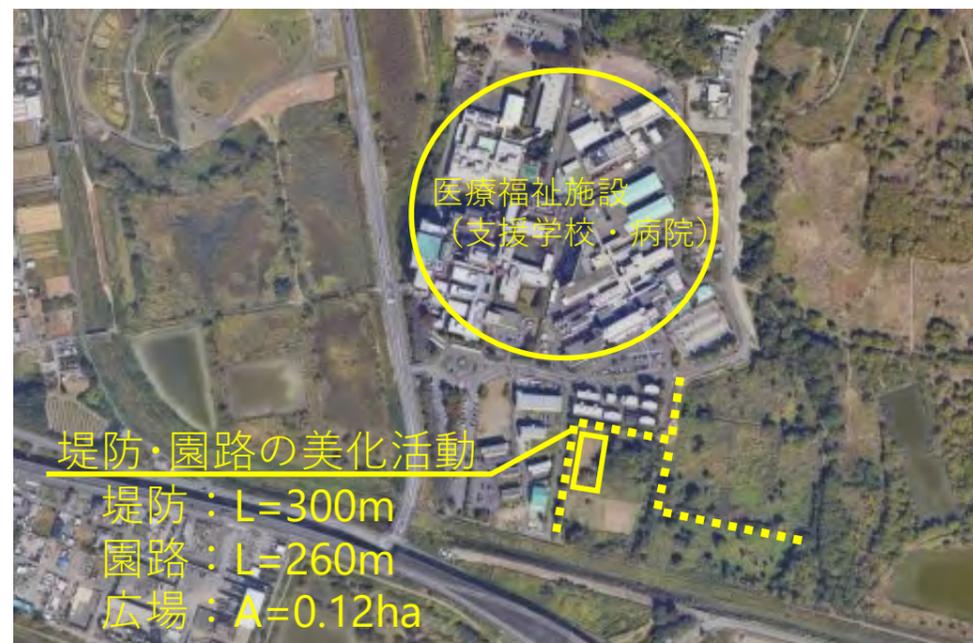


北支援が管理している花壇

引用 | 麻機遊水地保全活用行動計画 改訂2版 P66より

3.活動場所

・麻機遊水地 第3工区



4.実施内容及び主体

- 実施内容 | 堤防の美化活動
- 実施団体 | 地域の庭を作る会
- 詳細 | 子ども病院・てんかん医療センターの患者や家族、特別支援学校の生徒などが、自然散策ができるよう、堤防の美化活動を実施。(2005～) 月に1度程度の頻度で、除草作業、花壇整備などを行う。



- 実施内容 | 管理道・園路の整備
- 実施団体 | ベーター麻機部会
- 詳細 | 堤防の美化活動と同様の目的で、園路の脇の除草、広場の整備、簡易トイレの清掃作業を実施。



民間連携の取組み：⑫ 持続的な資源活用の推進

1.活動概要

- ・麻機地域の放任竹林の竹を活用した「竹あかり（竹灯籠）」の製作・事業化（『アカリノワProject』）
- ・遊水地のヒメガマを活用したウイスキー樽の製作・事業化の試行

2.行動計画上の位置付け

- ・地域課題である「ヒメガマの繁茂」や「放任竹林」の解決に向けた持続的な資源活用を推進。

②6 次産業化
<ステップ 1>
 遊水地内に整備した水田や畑で収穫された農作物の食品加工や、遊水地の植物を利用した工芸品等、6次製品の開発を行う。



ミズアオイの花を乗せた饅頭、ヒシとハスの実ご飯

<ステップ 2>
 遊水地内に整備した水田や畑で収穫された農作物の食品加工や、遊水地の植物を利用した工芸品等、6次製品の販売を行い、活動経費の資金とする。

③竹灯籠作り、展示
<ステップ 1>
 周辺の放任竹林対策として、竹灯籠作りと竹灯籠展示を行う。また、使用した竹灯籠の廃材については、竹炭やチップ化し遊水地内での活用を図る。



竹灯籠

<ステップ 2>
 竹灯籠を活用したイベントを拡大し、地域活性化や活動資金を得るための仕組みづくりを構築する。また、周辺の放任竹林の改善を図る。



竹灯籠

④ヨシの活用
<ステップ 1>
 遊水地内のヨシ迷路や、ヨシを活用した遊び体験、ヨシ舟造り体験などを行い、ヨシを活用することで、植生遷移の抑制を図る。



ヨシ原の迷路

<ステップ 2>
 適正に管理されたヨシ原を維持するとともに、市民の活用を促進する。

引用 | 麻機遊水地保全活用行動計画 改訂2版 P68より

3.「竹あかり（竹灯籠）」の製作・事業化

- ・実施団体 | 『アカリノワProject』（株式会社 大測）
- ・詳細 | 麻機地域でみかん畑に置き換わり問題となっている放任竹林の伐採竹を活用した『竹あかり（竹灯籠）』を製作。県内各地へを普及・設置している。



- ・今年度の主な設置先 |
 - 静岡市「駿府城公園」「ホテルアソシア」
 - 静岡市伊東市「伊東温泉」
 - 沼津市「新仲見世商店会」
 - 藤枝市「岡部宿大旅籠柏屋・内屋本陣史跡広場」 など



QRコードリンク | 大丸・松坂屋 プロジェクト特設HP「Think Local」
 記事タイトル: 厄介者の竹が、希望のあかりに。「アカリノワ」が照らす地域の未来

- ・今年度の主な普及活動 |
 - 竹活用ワークショップ・講座
 - NHK World Japan 特集取材対応



QRコードリンク | YouTube「NHK WORLD-JAPAN」チャンネル
 動画タイトル: Bamboo Lights the Way - Zero Waste Life

4.ウイスキー樽 製作・事業化の試行

- ・実施団体 | 十山(株)
- ・詳細 | 南アルプスの自然共生サイト『井川山林』のミズナラ・麻機のヒメガマで作る『オール静岡産ウイスキー樽』を目標に製作試行中。
- ・進捗 | 前期：ヒメガマ採取
 地域祭りへ出店
 後期：ヒメガマの清掃・再分配・乾燥
 活用試験（既存品と同等以上の品質を確認）



民間連携の取組み：⑬ 生物調査に関する実証実験 ~音声AIによる鳥類モニタリング~

1.活動予定概要

第1工区の2箇所に卵型のマイクアレイを設置し、周辺の環境音を24時間収集し、AIを用いて対象種をモニタリングする。

- ・対象種：主に鳥類を想定（哺乳類・両生類など声を発する種が対象。外来種の検出についても検討）
- ・測定、評価：検出された種の整理、専門家モニタリング・カメラトラップとの比較評価

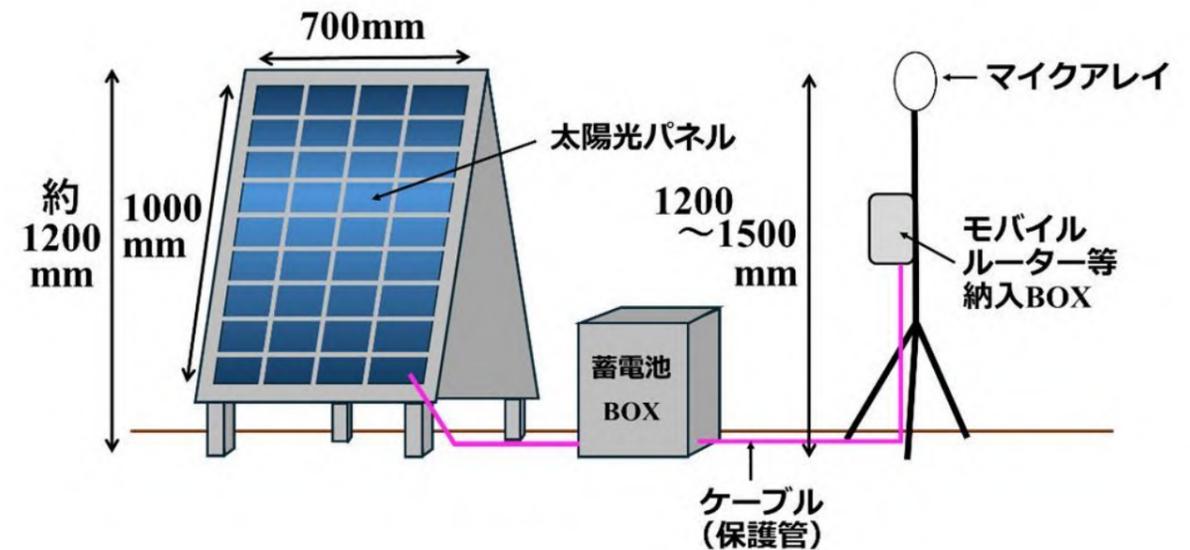
2.活動場所

- ・麻機遊水地第1工区



4.マイクアレイ概要

- ・卵型のマイクアレイを設置する
- ・24時間測定可能なように太陽光と蓄電池による自立稼働を想定（電源供給が可能な場合は、電源を供給することで稼働させる。）
- ・洪水時の流出がないように流出対策を行う。



設備設置イメージ

3.実施概要（予定）

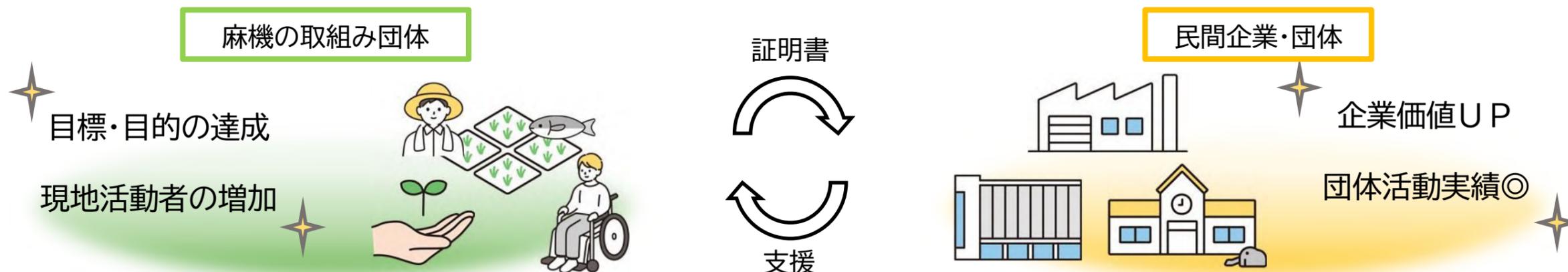
- ・実施内容 | 音声収集→AIによる種判定
 - ・実施団体 | (株)奥村組・ハイラブル(株)
 - ・協力団体 | ○○
 - ・実施スケジュール
2026年4月～2027年2月：現地実証
 - ・検証項目
 - 人手によるモニタリングとの比較検証
 - 非侵襲・自動化された調査手法としての有効性検証
 - データの可視化による市民等への啓発効果の検討
- ※設置場所については現地立会のもと決定させていただきます



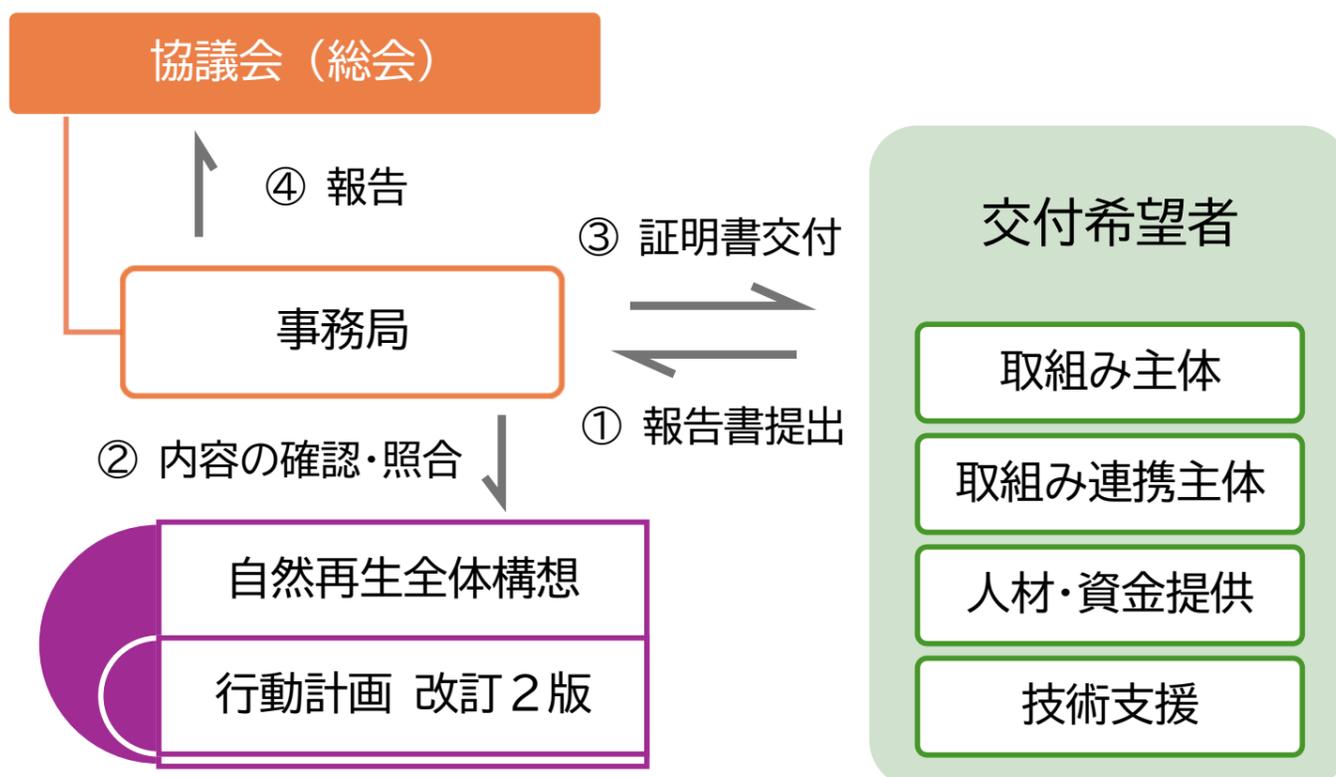
令和7年度（後期）支援証明書の発行実績

1. 支援証明書とは

- ・協議会の目的に沿う取組みの『**実施・援助・連携**』を行った民間企業・団体に発行する証明書（2024年秋より運用開始）
- ・現状の協議会に不足している『**人手・資金・技術**』への協力を得て、持続的な取組みの実施を目指す



2. 交付のながれ



【交付基準 | 協議会の理念※に沿う活動】

- ・河川清掃・除草ボランティア
- ・自然再生・環境教育活動の実施
- ・自然環境調査
- ・歴史文化の保存・継承
- ・協議会事業や遊水地の自然の魅力発信
- ・これら取組みへの支援・連携

など

※ 詳細は、協議会が策定している『自然再生全体構想』『行動計画 改訂2版』を参照

令和7年度（後期）支援証明書の発行実績

3. 令和7年度（後期）発行実績一覧（対象期間:令和7(2025)年度）

※ 各団体の活動報告書は、参考資料2を参照

No	発行年月日	発行先	支援内容	支援数量	行動計画 該当項目
1	令和7年11月19日	渡辺東亜(株)	第4工区：サクラタデ群落の保全 ・選択的除草作業	4名/年	②-2 動植物の生息・生育環境の保全・再生 ③-1 環境学習の場としての活用方法の検討・実施
2	令和8年3月6日	十山(株)	第2-1工区：ヒメガマの除去・活用 ・ヒメガマの除草作業 ・ウスキー樽づくりへの活用試験 ・3町合同夏祭りへの出展	16名/年	③-7 持続的な自然資源活用のための検討・実施 ④-3 市民、団体、企業、行政とのネットワーク形成の推進
3	令和8年3月6日	静和工業(株)	第4工区：麻機遊水地クリーン作戦への参加 ・事前準備、除草、集草の実施	15名/年	③-5 清掃作業の実施
4	令和8年3月6日	NTCコンサルタンツ(株)	第3工区：ベーター麻機福祉農園の整備・イベント ・農園および園路除草作業 ・特別支援学校やこども園と連携した 田植え・収穫体験イベント	14名/年	③-1 環境学習の場としての活用方法の検討・実施 ③-2 水田の維持管理・利用方法の検討・実施 ③-8 今後を担う人材の育成 ④-3 市民、団体、企業、行政とのネットワーク形成の推進 ⑥-2 環境を活用した健康づくりの支援 ⑥-5 周辺の福祉・医療機関や企業と連携した自然との共生
5	令和8年3月6日	中日本建設コンサルタント(株) 静岡事務所	同上	37名/年	同上
6	令和8年3月6日	(株)ニュージェック	第3工区：ベーター麻機福祉農園の整備・イベント ・農園および園路除草作業 ・特別支援学校やこども園と連携した 田植え・収穫体験イベント 第3工区：麻機遊水地クリーン作戦への参加	10名/年	③-1 環境学習の場としての活用方法の検討・実施 ③-2 水田の維持管理・利用方法の検討・実施 ③-5 清掃作業の実施 ③-8 今後を担う人材の育成 ④-3 市民、団体、企業、行政とのネットワーク形成の推進 ⑥-2 環境を活用した健康づくりの支援 ⑥-5 周辺の福祉・医療機関や企業と連携した自然との共生
7	令和8年3月6日	(株)不動テトラ 中部支店 静岡事務所	同上	21名/年	同上
8	令和8年3月6日	(一社)グリーンパークあさはた	第1工区・第3工区：環境学習・外来種対策 ・生物多様性セミナー現地視察講師 ・ナガエツルノゲイトウ駆除 ・SDGsアワード表彰式事業説明	3名/年	②-1 外来種の管理手法の検討および対策の実施 ③-1 環境学習の場としての活用方法の検討・実施 ③-8 今後を担う人材の育成 ④-2 自然再生事業の情報発信および収集と市民参加の推進 ④-3 市民、団体、企業、行政とのネットワーク形成の推進 ⑥-5 周辺の福祉・医療機関や企業と連携した自然との共生
9	令和8年3月6日	常葉大学社会環境学部	第2-1工区・第3工区：外来種対策 ・ナガエツルノゲイトウの 駆除活動・防除手法試験・モニタリング・広報	64名/年	②-1 外来種の管理手法の検討および対策の実施 ②-2 動植物の事前調査・モニタリング調査の実施 ③-8 今後を担う人材の育成 ④-2 自然再生事業の情報の発信および収集と市民参加の推進 ④-3 市民、団体、企業、行政とのネットワーク形成の推進
10	令和8年3月6日	東海大学水棲環境研究会	第3工区・第4工区：生物調査・観察会・柴揚げ漁 ・定点調査（魚類・水生生物） ・自然観察会支援 ・柴揚げ漁支援	86名/年 18万円	②-1 外来種の管理手法の検討および対策の実施 ②-3 動植物の事前調査・モニタリングの調査の実施 ③-1 環境学習の場としての活用方法の検討・実施 ③-4 風俗・風習の継承 ③-8 今後を担う人材の育成 ⑥-4 自然と歴史を体感する憩いの場
11	令和8年3月11日	(福)愛誠会	第3工区：ベーター麻機福祉農園イベント参加 ・福祉農園を通じた障がい者の理解・共生（ノーマライ ゼーション・インクルージョン）の推進 ・社会福祉と地域の相互理解の促進。	9名/年	④-3 市民、団体、企業、行政とのネットワーク形成の推進 ⑥-2 環境を活用した健康づくりの支援 ⑥-5 周辺の福祉・医療機関や企業と連携した自然との共生

令和7年度麻機遊水地生物調査結果について

- ・協議会では、麻機遊水地の自然再生事業の推進にあたり、専門委員のご協力のもと生物調査を実施している。
- ・本年度は、「植物」および「鳥類」についての調査結果を報告する。

参考 | 行動計画における位置づけ

5-5-3.在来種の保全と生態系のバランスを保つ

麻機遊水地では、湿地特有の多くの動植物が生息・生育している。しかし、外来種の移入や増加、植生遷移等によりその生態系が悪化しつつある。そのため、現状把握と現状を維持する取組みを進め、調査結果や取組み成果を検証したうえで、希少種や在来種の生育・生息環境の拡大と、外来種の減少を図り、多様性のある自然環境を目指す。

将来的には、良好な自然環境の維持と、自然環境を活かした観察会や自然体験会などを開催し、市内外からの来訪者の増加や交流による地域活性化を目指す。

また、遊水地の立地特性を活かし、自然を活かした健康増進や各種施設利用者の癒し、さらには地域産業との連携を図る。

■在来種の保全と生態のバランスを保つ

【ステップ1】

現状把握と現状の自然環境を維持するための取組み。

【ステップ2】

希少種や在来種の生育・生息環境の拡大と、外来種の減少を図る。

【目標】

良好な自然環境を活かした各種取組みと地域活性化を目指す。

(1)生物・植物調査

①生物・植物調査

<ステップ1>

遊水地に生息する鳥類、昆虫類、魚類、両生爬虫類、哺乳類等の生物調査、及び植物調査を行い、遊水地の自然環境を把握する。

<ステップ2-1>

遊水地に生息する生物の把握を行い、必要に応じその保全対策とその駆除対策を実施する。

②データの公開

<ステップ1>

調査データの利活用、科学的知見からの表か検証を促進するため、データ公開フォーマットを整備し、これまで協議会で蓄積してきた調査データを公開する。

<ステップ2-1>

今後の調査データや協議会委員の各取組みの結果の公表を行う。

表 | 植物モニタリング 調査スケジュール

予定

工区	調査項目	調査時期	H30 (2018)	H31/R (2019)	R2 (2020)	R3 (2021)	R4 (2022)	R5 (2023)	R6 (2024)	R7 (2025)	R8 (2026)	R9 (2027)	R10 (2028)
麻機遊水地 第1工区 (22ha)	植物相調査	春～初夏				●					○		
		夏				●					○		
		秋	●			●						○	
	植生調査	植生図	夏～秋			●					●		
群落組成		夏～秋			●					●			
麻機遊水地 第2-1工区 (51ha)	植物相調査	春～初夏						●					○
		夏						●					○
		秋						●					○
	植生調査	植生図	秋						●				
群落組成		秋						●					○
麻機遊水地 第3工区 (55ha)	植物相調査	春～初夏					●						○
		夏					●						○
		秋	●				●						○
	植生調査	植生図	夏～秋		●					●			
群落組成		夏～秋		●					●				
麻機遊水地 第4工区 (32ha)	植物相調査	春～初夏				●							○
		夏				●							○
		秋	●			●							○
	植生調査	植生図	夏～秋		●					●			
群落組成		夏～秋		●					●				
上流域特定外来生物 (植物)調査	浅畑川	秋								●			
	巴川	秋									○		

凡例) ●:実施済 ○:実施予定

↑
本年度実施内容

令和7年度麻機遊水地生物調査結果について

1. 植物調査

1-1. 目的

- 麻機遊水地の自然環境（植生）の変化を把握すること。
- 自然再生事業を検討するための、基盤的なデータの蓄積。

1-2. 実施項目

- 植生調査（植生図作成調査・群落組成調査）
- 特定外来生物調査（ナガエツルノゲイトウ・オオフサモ）

※ 群落名は『河川水辺の国勢調査向けの生物リスト（植物群落リスト R7.8.8更新）』を基準とする

※ 調査実施者 | (株)環境アセスメントセンター

植生調査（植生図作成）



(R7 (2025) /9/18 撮影)

植生調査（群落組成調査）



(R7 (2025) /9/25 撮影)

特定外来生物（植物）調査



(R7 (2025) /9/19 撮影)

特定外来生物（植物）調査



(R7 (2025) /9/24 撮影)

特定外来生物（植物）調査



(R7 (2025) /9/25 撮影)

特定外来生物（植物）調査



(R7 (2025) /10/15 撮影)

浅畑川上流域特定外来生物（植物）調査



(R7 (2025) /9/4 撮影)

浅畑川上流域特定外来生物（植物）調査



(R7 (2025) /9/12 撮影)

浅畑川上流域特定外来生物（植物）調査



(R7 (2025) /10/30 撮影)

写真 | 現地調査のようす

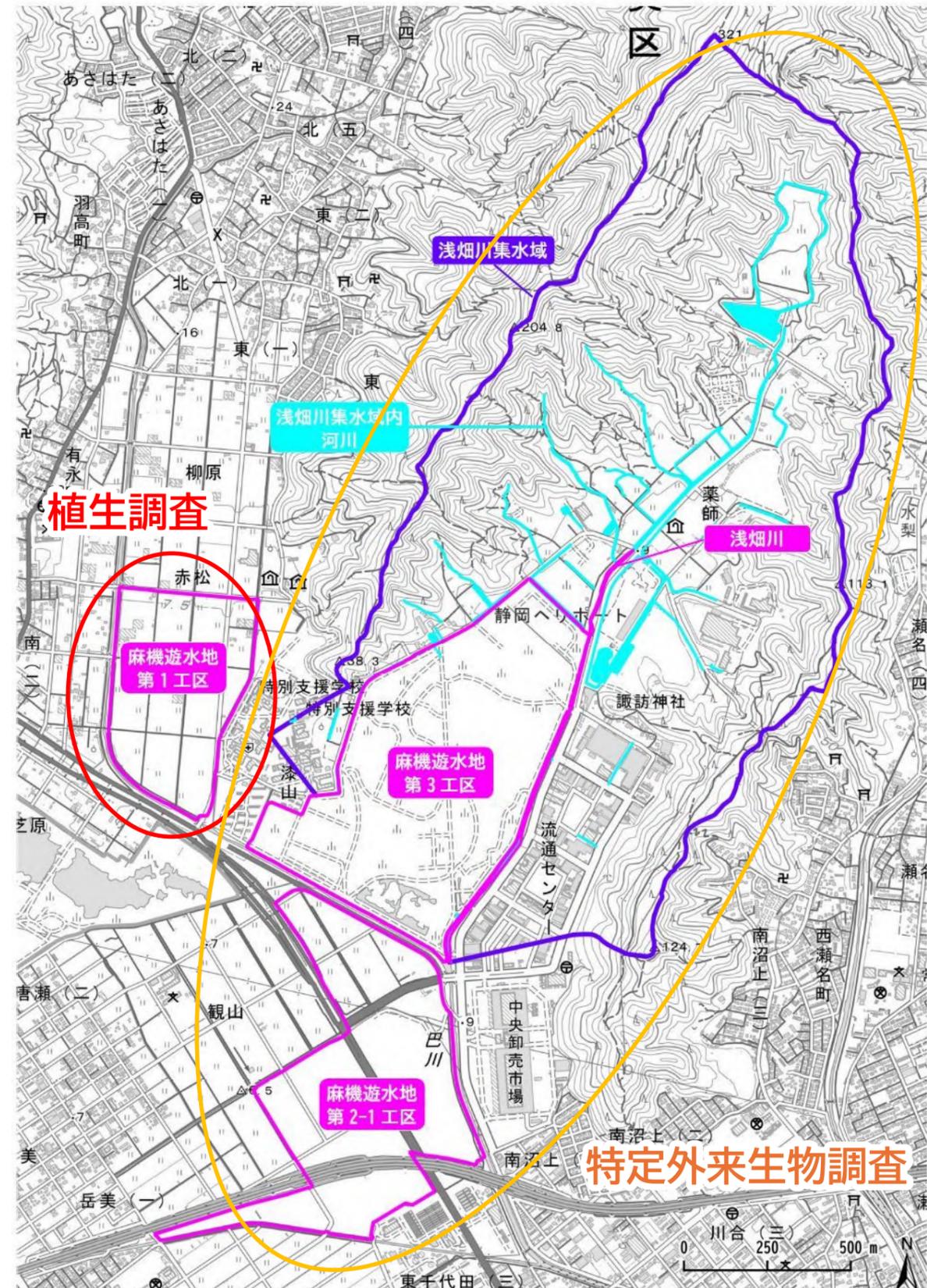


図 | 調査内容と対象エリア

令和7年度麻機遊水地生物調査結果について

1-3-1. 植生調査 結果概要

□ 最新の空中写真および現地調査(秋)を基に、第1工区の植生図を作成

□ 前回調査は5年前(令和2(2020)年度(秋))
あさはた緑地造成完了・供用開始前(令和3(2021)年4月1日)

□ 主要な(面積の大きい)群落 | 5年前調査と概ね同じ

- ・ 主要な群落で全体の39%を占める
 - ヒメガマ群落(14%)
 - オギ群落(10%)
 - ヨシ群落(8%)
 - キシュウスズメノヒエ群落(外来)(7%)
- ・ その他で面積が大きいのは、道路(15%)、開放水面(9%)
- ・ セイタカアワダチソウ群落(外来)が、9割減(9%→1%)

□ 小規模な(面積の小さな)群落 | 新規6群落、樹林化傾向

- ・ 新規6群落が出現
 - ・ オニバス群落(希少種)
 - ・ ミズアオイ群落(希少種)
 - ・ オオカナダモ群落(外来)
 - ・ シバ群落
 - ・ マダケ植林
 - ・ 公園・グラウンド
- ・ 樹林地(ヤナギ高木林、植林地(竹林)、植林地(その他))が増加傾向



参考図 | 令和7年度植生図(麻機遊水地第1工区)

令和7年度麻機遊水地生物調査結果について

1-3-2. 植生調査 詳細資料 (一部抜粋)

表 3.1.1 植物群落一覧 (麻機遊水地第1工区) (網掛けは新規確認群落)

大分類	基本分類	群落表示コード	群落名	外来	面積 (ha)		備考
					R2 (2020)	R7 (2025)	
河辺植生域	沈水植物群落	011	オオカナダモ群落	●	—	0.0003	新規
	浮葉植物群落	0214	オニバス群落		—	0.003	新規
		022	ヒシ群落		0.06	—	
	1年生草本群落	051	ミズアオイ群落		—	0.003	新規
		058	ミゾソバ群落		0.24	0.08	
		0510	オオイヌタデーオオクサキビ群落		0.11	0.53	
		0512	オオオナモミ群落	●	0.12	0.01	
		0513	コセンダングサ群落	●	0.62	0.03	
		0514	メヒシパーエノコログサ群落		0.93	0.73	
		0516	オオブタクサ群落	●	0.03	0.29	
		0525	カナムグラ群落		0.01	0.59	
		0540	ホソバヒメミソハギ群落	●	0.01	—	
		067	アレチハナガサ群落	●	0.06	—	
	多年生広葉草本群落	068	セイタカアワダチソウ群落	●	2.10	0.21	
		0610	ヤブガラシ群落		0.06	—	
		0612	ギンギン群落		0.07	—	
		0614	カゼクサーオオバコ群集		0.01	—	
		06601	チドメグサ群落		0.07	—	
	単子葉草本群落 (ヨシ群落)	071	ヨシ群落		1.58	1.78	
		073	セイタカヨシ群落		0.04	0.04	
	単子葉草本群落 (オギ群落)	091	オギ群落		2.33	2.34	
	単子葉草本群落 (その他の単子葉草本群落)	101	ウキヤガラマコモ群集		0.12	0.11	
		103	カンガレイ群落		0.02	0.01	
104		ヒメガマ群落		3.56	3.29		
1020		キシウスズメノヒエ群落	●	1.64	1.60		
1031		タチスズメノヒエ群落	●	0.42	0.93		
1032		シマスズメノヒエ群落	●	0.53	0.11		
1039		シバ群落		—	0.18	新規	
1041		ススキ群落		0.02	0.68		
1060		ジュズダマ群落	●	0.22	0.15		
ヤナギ高木林		125	タチヤナギ群集		0.12	0.52	
	127	ジャヤナギーアカメヤナギ群集		0.16	0.30		
	128	ジャヤナギーアカメヤナギ群集 (低木林)		0.16	0.04		
	182	マダケ植林		—	0.02	新規	
造林地	植林地 (竹林)	204	シダレヤナギ植林	●	0.11	0.59	
	植林地 (その他)	2010	植栽樹林群		0.17	0.43	
耕作地	畑	222	畑地 (畑地雑草群落)		0.01	0.04	
	水田	23	水田		0.02	0.07	
		232	水田 (ハス畑)		1.54	1.16	
施設地	グラウンドなど	251	公園・グラウンド		—	0.15	新規
		253	人工裸地		1.01	0.18	
	人工構造物	261	構造物		0.07	0.15	
		262	コンクリート構造物		0.04	0.05	
		263	道路		2.60	3.52	
水面	開放水面	28	開放水面		2.00	2.09	
計 44 区分				12 群落	39 群落	37 群落	4 群落

注) 群落名は「河川水辺の国勢調査向けの生物リスト (植物群落リスト、令和7 (2025) 年8月8日更新) (https://www.nilim.go.jp/lab/ibg/kankankyo/mizukokuweb/system/seibutsulist.htm) を基準とした。「シダレヤナギ植林」はシダレヤナギが逸出して成立した群落であり、「マダケ植林」は自然侵入したマダケの優占する群落であり、人為的に植林されたものではない。
注) 外来種: 外来種 (概ね明治以降に人為的影響により侵入したと考えられる国外由来の動植物 (国外来種)) が優占する群落

参考表 | 令和7年度植生群落一覧 (麻機遊水地第1工区)

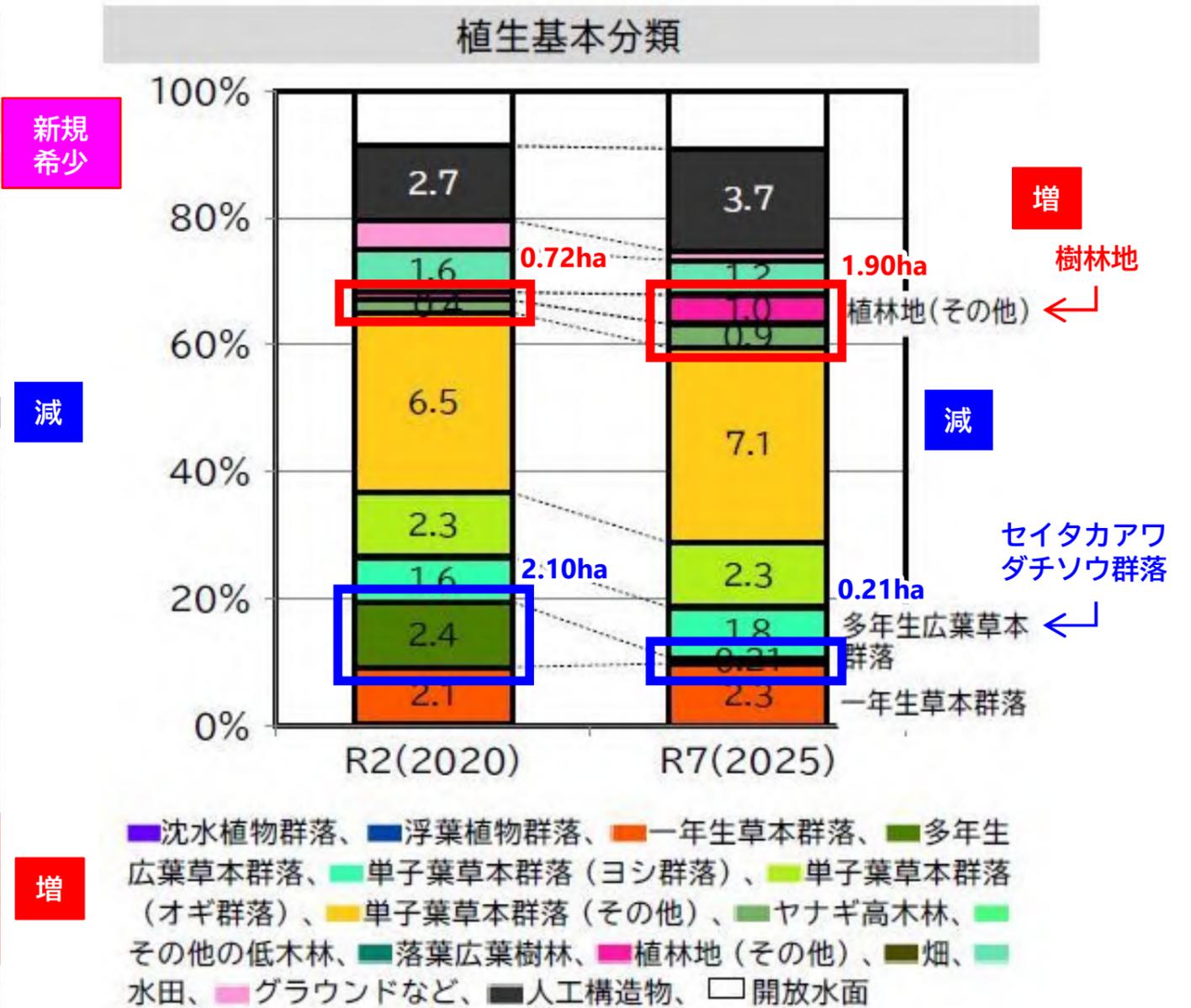


図 | 植生面積 (ha) と経年変化 (麻機遊水地第1工区)

令和7年度麻機遊水地生物調査結果について



図 | セイトカアワダチソウ群落（濃緑）の激減（麻機遊水地第1工区：指定管理境界付近）

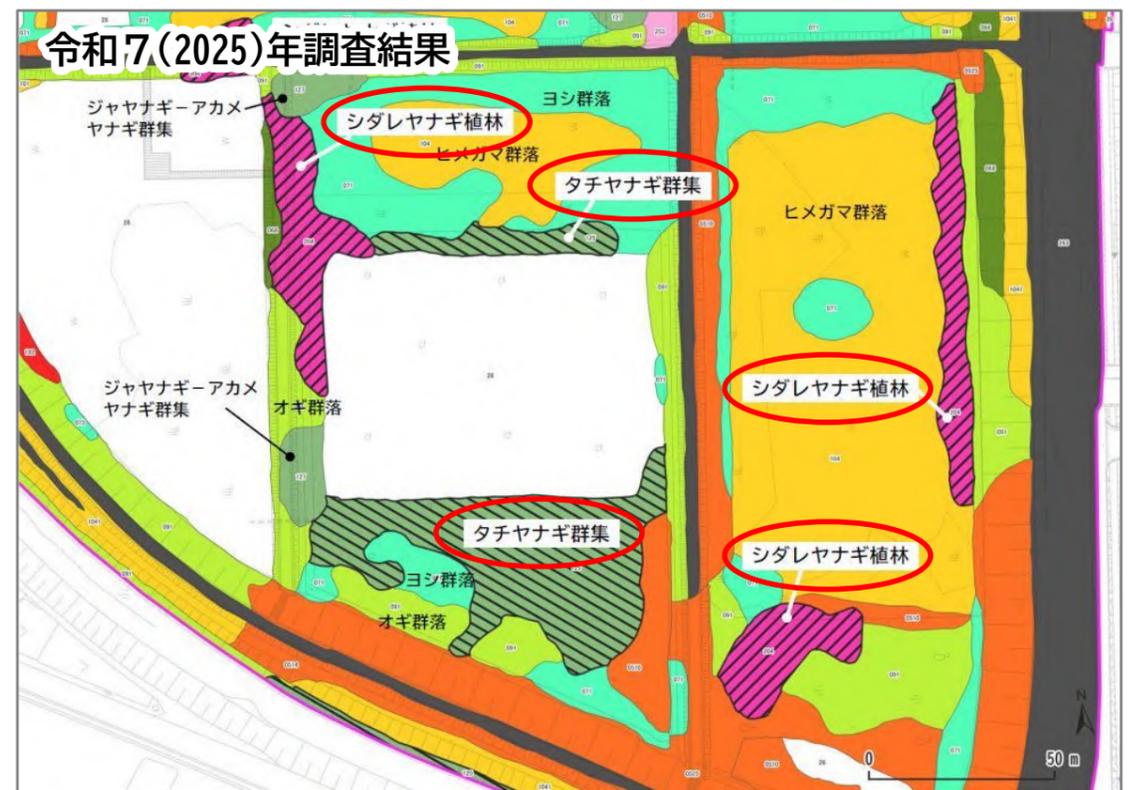


図 | タチヤナギ・シダレヤナギ群落（斜線）の出現（麻機遊水地第1工区：南側）

令和7年度麻機遊水地生物調査結果について

1-3-2. 植生調査 考察

□ 良い点

- あさはた緑地が自然再生の場所として機能している
 - オニバス群落、ミズアオイ群落が出現（公園指定管理者・造園業者・市民団体のきめ細かい管理・工夫により実現）
 - 麻機の重要種「オニバス・ミズアオイ」を誰もが観察できる場所となっている
 - 公園区域内のセイタカアワダチソウが激減（カヤネズミ保全のための除草方法の工夫・保全活動により実現）

□ 今後の注意点

- 除草管理で出現しやすい外来種の動向に注意
 - オオブタクサ・キシユウスズメノヒエ・タチスズメノヒエ・シダレヤナギなど
- ヤナギ類による急速な樹林化 ⇒ 植生の多様性保全、遊水地機能の維持管理の観点でリスク
 - 5年前からヤナギ類が出現。あさはた緑地の南側に好適環境が揃っており、現群落から急拡大の危険性大。
 - 植生の多様性上の懸念：攪乱環境が消失し、攪乱依存型の重要種が出現しなくなる
 - 施設維持管理上の懸念：樹林化・藪化すると点検等の治水上の管理や市民の利活用
 - リスクやコストを抑えるには、早期の対応が重要。具体的な管理手法は、モニタリング成果を踏まえて議論・判断すべき。



あさはた緑地内で観察できるオニバス・ミズアオイ



ヤナギ林の拡大には要注意

令和7年度麻機遊水地生物調査結果について

1-4-1. 特定外来生物調査 概要

□ 分布状況の把握

第2-1工区、第3工区、巴川、浅畑川の特定外来生物「ナガエツルノゲイトウ・オオフサモ」の分布を調査

□ 最上流の供給源特定

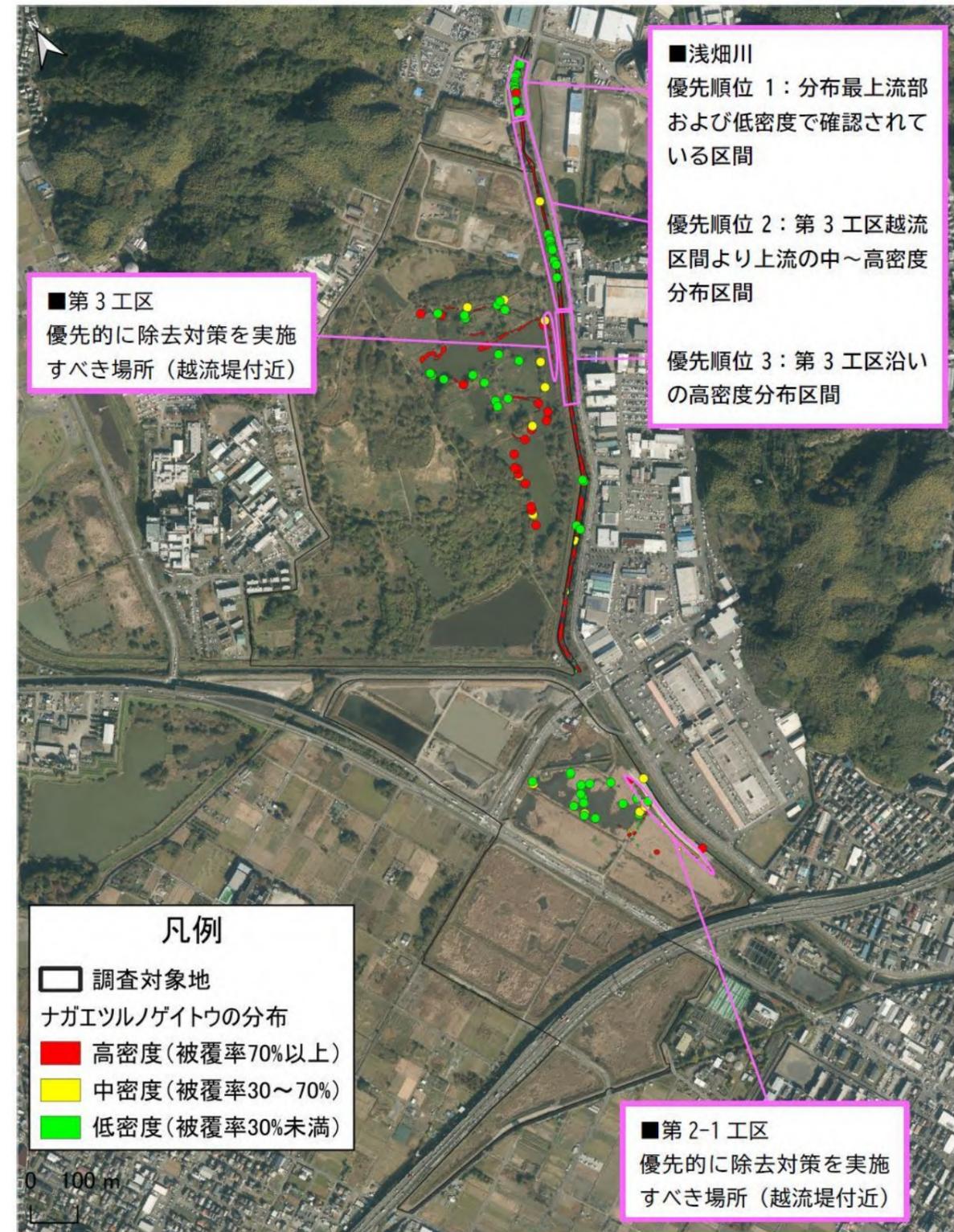
・ 浅畑川集水域の「ナガエツルノゲイトウ」分布を調査

□ 分布状況の把握 | 越流堤付近をメインにナガエが増殖

- ・ 第2-1工区加藤島エリア：ナガエが増殖
 - ナガエは、加藤島エリアの東側（越流の影響有）に確認
 - 生育地点・面積ともに大きく増加
 - 産官学民連携チームにより駆除活動が行われているが、**拡大速度に追いついていない**
 - 今後の雨の規模次第で拡大の懸念あり
 - オオフサモは確認されなかった
- ・ 第3工区：ナガエ増殖・オオフサモ現状維持
 - ナガエは、浅畑川沿いの水面～水際に確認
 - 生育地点・面積ともに大きく増加
 - 駆除活動により、R4～R5は拡大を押しとどめていたが、**R6以降は拡大速度に追いついていない**
 - オオフサモは、四角池近くの小池および越流堤付近にのみ確認
 - ナガエ・オオフサモともに、今後の雨の規模次第で拡大の懸念あり

□ 最上流の供給源特定 | 浅畑川起点より上流に分布なし

- ・ 浅畑川流域のナガエツルノゲイトウの**最上流は、浅畑川起点部**（沼上清掃工場前の交差点まで）
- ・ 巴川本流の最上流は不明（次年度調査予定）



概要図 | ナガエツルノゲイトウの分布状況と対策優先度

令和7年度麻機遊水地生物調査結果について

1-4-2. 特定外来生物調査（ナガエツルノゲイトウ） 詳細資料（一部抜粋）

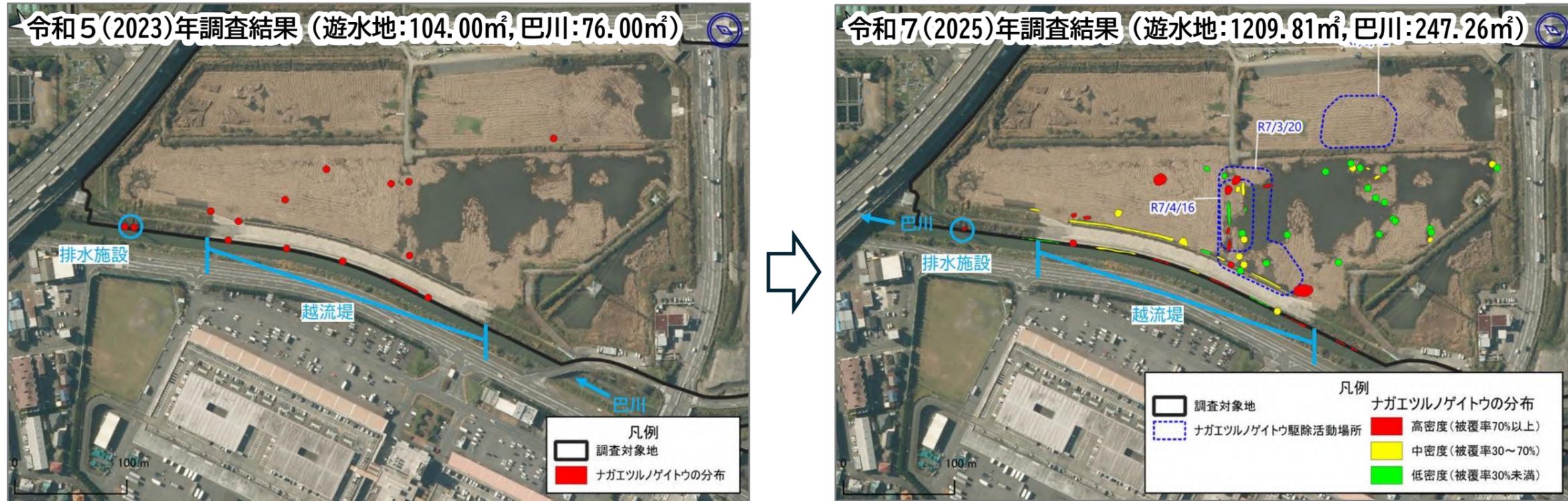


図 | ナガエツルノゲイトウの分布・増殖・駆除活動の推移（麻機遊水地第2-1工区加藤島エリア・巴川）

令和5（2023）年度			
調査場所	調査エリア	地点数	面積（m ² ）
麻機遊水地 第2-1工区	加藤島エリア	8	104.00
	立石エリア	0	0
	安東川エリア	0	0
	豊地エリア	調査未実施	調査未実施
巴川（麻機遊水地第2-1工区沿い）		7	76.00

駆除活動
↓

令和7（2025）年度			
調査場所	調査エリア	地点数	面積（m ² ）
麻機遊水地 第2-1工区	加藤島エリア	49 (+41)	1209.81 (+1105.81)
	立石エリア	0	0
	安東川エリア	0	0
	豊地エリア	0	0
巴川（麻機遊水地第2-1工区沿い）		12 (+5)	247.26 (+171.26)

表 | ナガエツルノゲイトウの確認地点数・分布面積の推移（麻機遊水地第2-1工区全域）

令和7年度麻機遊水地生物調査結果について

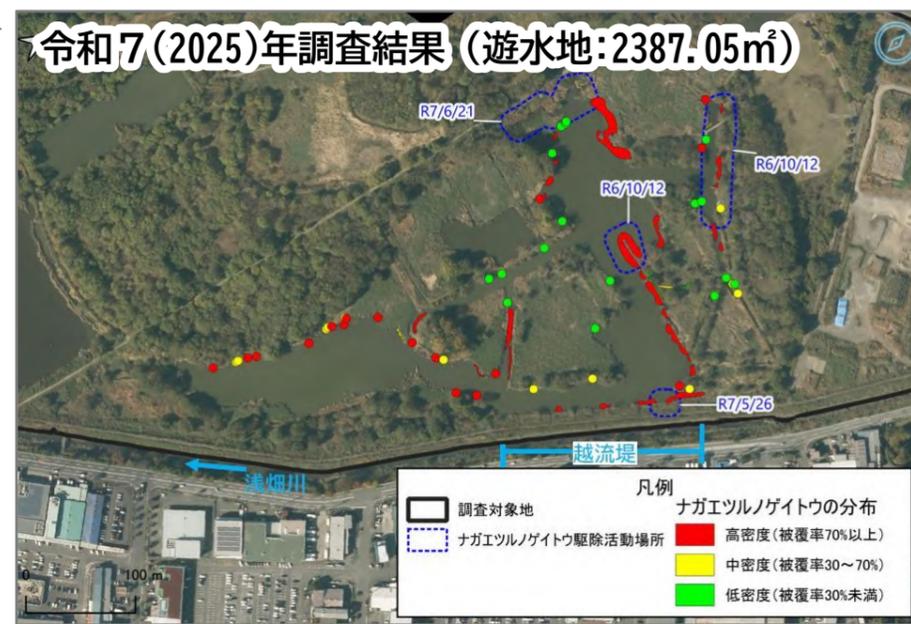
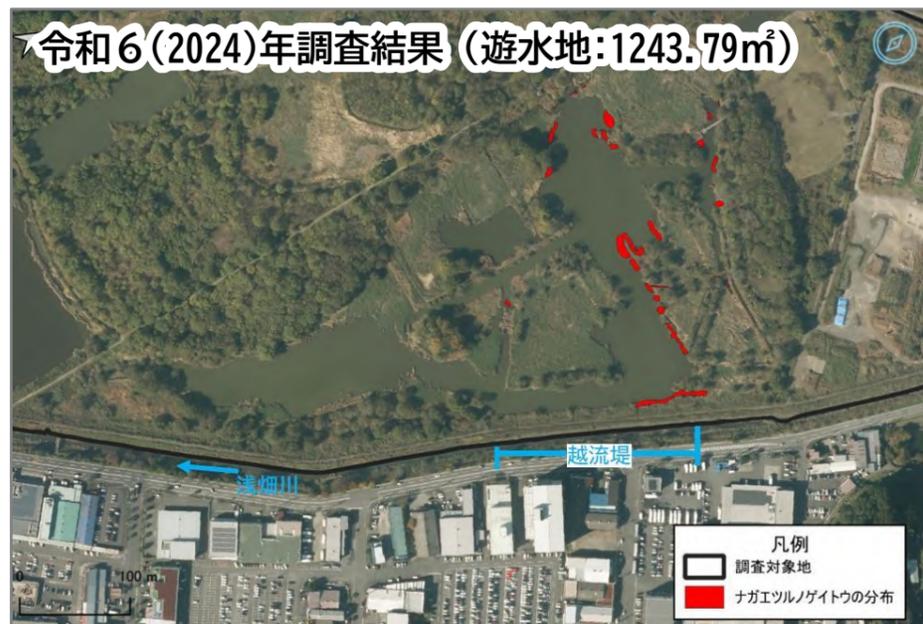
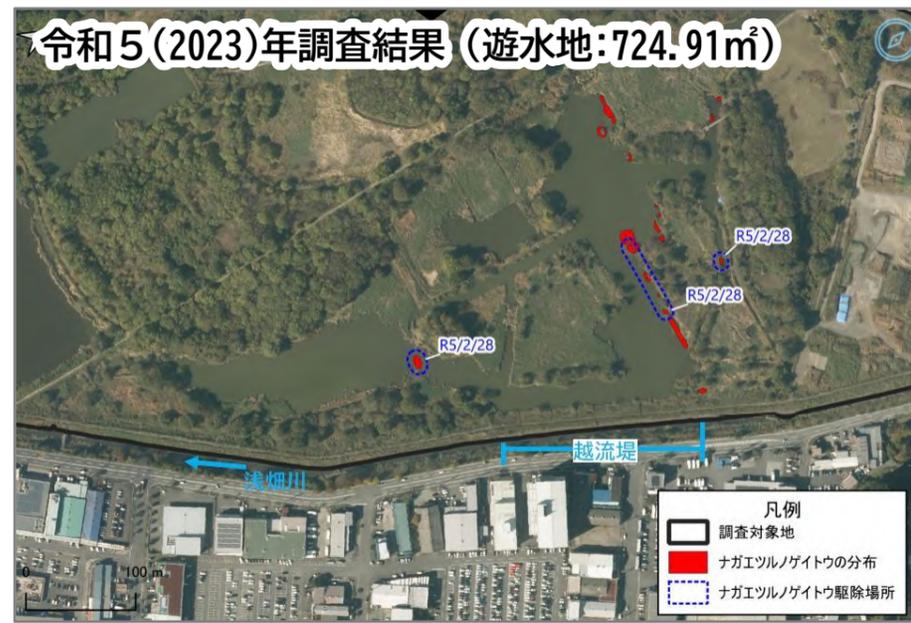
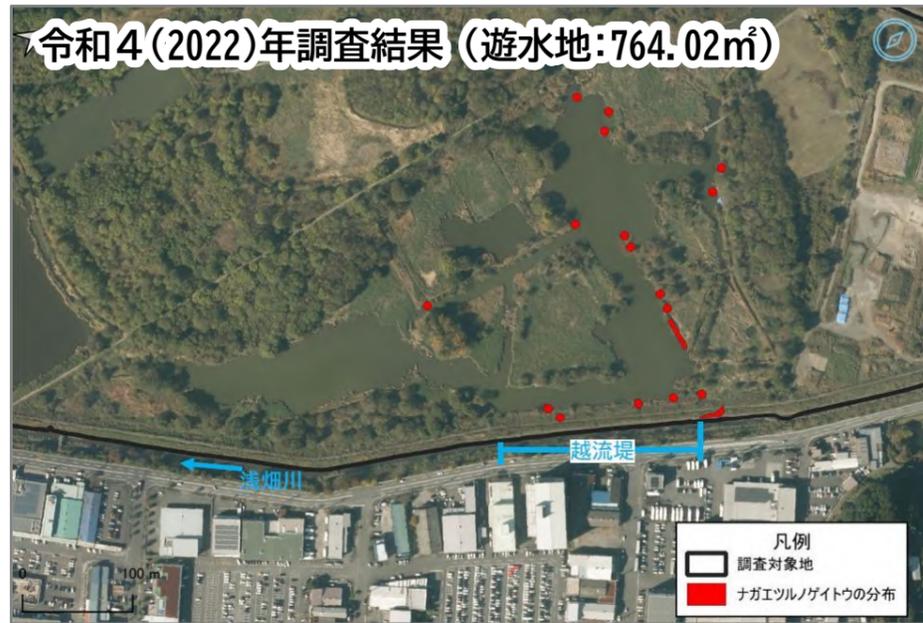


図 | ナガエツルノゲイトウの分布・増殖・駆除活動の推移 (麻機遊水地第3工区)

平成 30(2018)年度		令和 4(2022)年度		令和 5(2022)年		令和 6(2024)年度		令和 7(2025)年度	
地点数	面積(m ²)	地点数	面積(m ²)	地点数	面積(m ²)	地点数	面積(m ²)	地点数	面積(m ²)
確認なし	確認なし	18 (+18)	764.02 (+764.02)	20 (+2)	724.91 (-39.11)	30 (+12)	1243.79 (+479.77)	78 (+48)	2387.05 (+1143.26)

表 | ナガエツルノゲイトウの確認地点数・分布面積の推移 (麻機遊水地第3工区)

図 | 2025年のナガエ分布 (浅畑川)

令和7年度麻機遊水地生物調査結果について

1-4-3. 特定外来生物調査 考察（今後の対策に向けて）

□ ナガエの供給源・拡散方法

- 今回の調査で、主要な供給源を特定
 - 浅畑川起点部が、根本的な供給源（最上流）
 - 越流堤付近で主に増殖。増水時に浅畑川・巴川から遊水地へ侵入
 - 遊水地の中に高密度で大規模な群落形成、各工区内で再拡散

□ ナガエの駆除・対策に重要な観点

- 広域・継続的な駆除・モニタリング
 - 水の流れを通して、遊水地全域、巴川流域全域に拡散しうる
 - 重点区域の設定、計画的な防除をするべき
 - 流域全体を対象とした継続的な駆除作業・モニタリングが重要
- 効率的な防除の模索・実践
 - 現行の防除手法のみでは、ナガエの十分な防除は困難
 - 明確に有効な防除手法がまだ少ないため、模索・試行も大切
 - 最上流部からの対策が最も有効（浅畑川起点部）
- 「いかに拡散を防止するか」
 - 今以上に被害を広げないことが大切
 - 加藤島エリア以外の第2-1工区に侵入させないために、連通管への対策が望まれる



浅畑川起点部での駆除



第2-1工区をつなぐ連通管



↑ネット前で止まったナガエ

農業用ネットによる拡散防止試験(第3工区)
実施:産官学民連携 麻機ナガエ対策チーム



遮光シートによる被覆試験(清水区折戸湾)
実施:静岡県自然保護課

拡散のイメージ



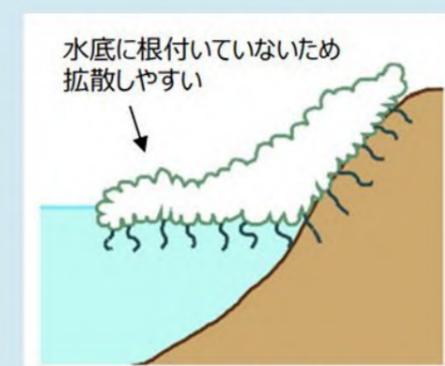
断片の拡散



定着



繁茂



水底に根付いていないため
拡散しやすい

生育イメージ

図引用 | ナガエツルノゲイトウ駆除マニュアル (農林水産省・環境省・農研機構 R7.3改訂)

令和7年度麻機遊水地生物調査結果について

2. 鳥類調査

2-1. 目的

- 麻機遊水地の自然環境（鳥類）の変化を把握すること。
- 自然再生事業を検討するための、広域的なデータの蓄積。

2-2. 実施項目

- ケリ個体数調査（代表種調査）
- 鳥類相調査（確認種記録）

※ 調査実施者 | 伴野正志 専門委員 + 遠藤若葉

2-3-1. ケリ個体数調査 結果・考察概要

- ケリは、麻機地域の**保全上重要な景観（水田や開けた湿地）を好む代表的な鳥**。
- 年6回の個体数調査を5年間実施した。

調査の狙い

- 個体数や繁殖状況から、**湿地の状態を間接的に把握**できる。
- 絶滅危惧種になっていない「今」の記録を残す。

生態

- 繁殖期：3～7月（春夏）、非繁殖期：8～2月（秋冬）
- 水田内やあぜに皿状の巣をつくる
- 全国的には普通種だが、水田・湿地環境の減少に伴い、絶滅危惧指定をする都道府県が増えている。

結果概要 | 繁殖前は30羽前後、繁殖期は最大85羽程度

- 成鳥の個体数は、約20～80羽程度で変化
- 繁殖期の個体数は最大85羽程度**まで増加
- 非繁殖期の個体数は30羽程度**に収まる傾向

考察 | 育った若鳥が麻機外へ分散、稲作の変化の影響

- 国道1号バイパス完成以前は、最大約120羽が生息していた。当時から**個体数が減った要因は、水田環境の減少や農作業暦の変化が影響**していると考えられる。
- 一方で繁殖期後は、育った若いケリが各地に分散している可能性がある。市内の水田が激減しているなか、**麻機は依然として、重要な繁殖地として機能している**と思われる。



ケリ成鳥



巣作り・抱卵



ケリ雛



子育て（親子）



セイタカシギを追い払うケリ



非繁殖期は群れで行動する（ヘリポート）

参考写真 | ケリは生涯（卵～成鳥）を水田・開けた湿地で暮らす

（撮影 | 伴野正志 専門委員）

令和7年度麻機遊水地生物調査結果について

2-4.鳥類相調査 結果概要・グラフ

- ケリ調査中に確認種(鳥)を記録。
- 年6回の個体数調査を5年間実施した。
- 基礎的なモニタリングデータとして蓄積

- **結果概要 | 冬鳥が多く飛来している**
 - 飛来する冬鳥の種類が多い(15種程度)。
 - 遊水地が**鳥の重要な越冬地・中継地**となっている。

※ 渡り性は「JAVIAN Database」(日本に生息する鳥類の生活史・生態・形態的特性に関するデータベース(高川ら,2023)および麻機の過去調査記録(伴野,非公開)を参考とした
 ※ 外来鳥(ドバト,ガビチョウ,コジュケイ)は分析から除いた

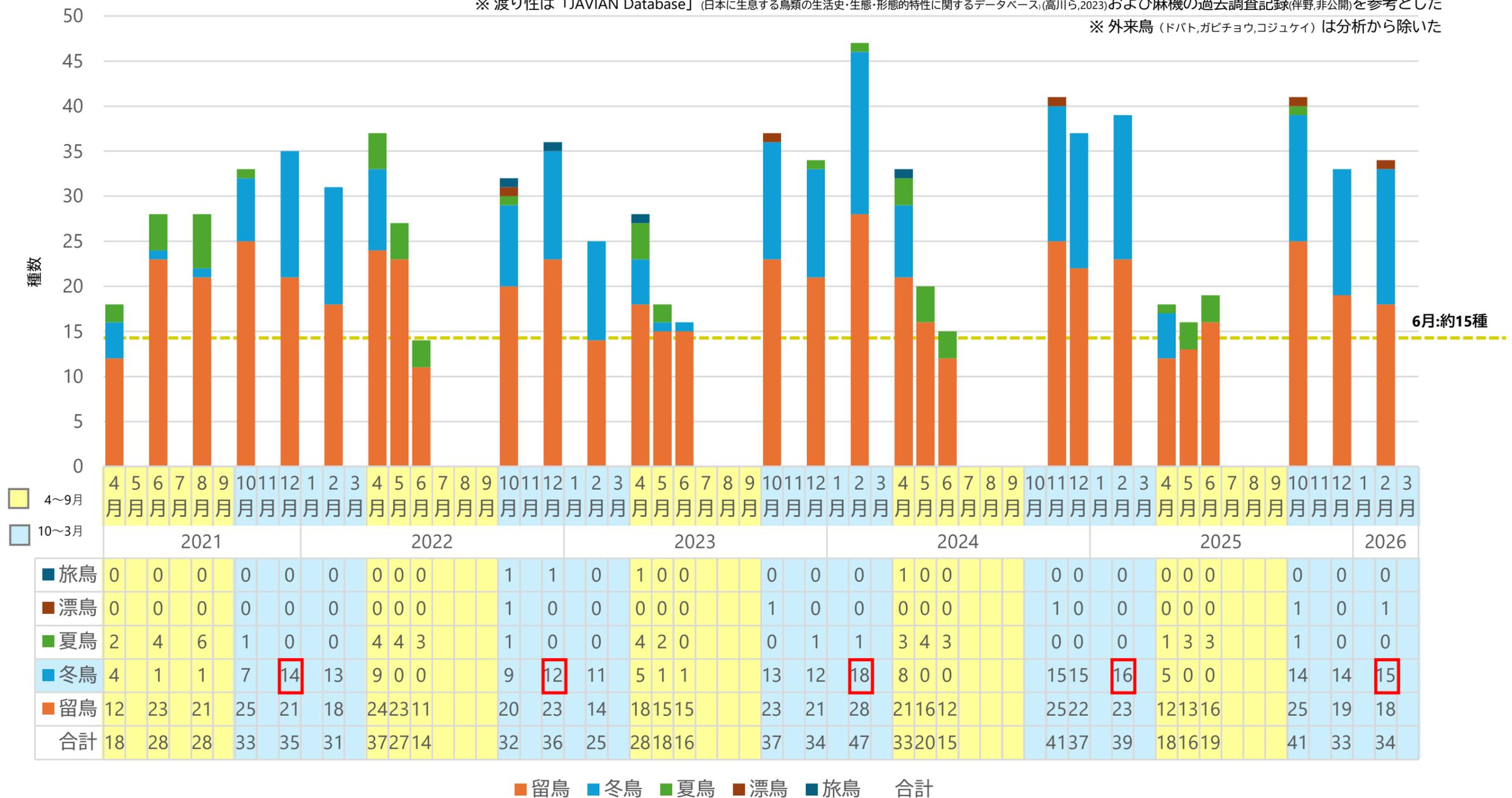
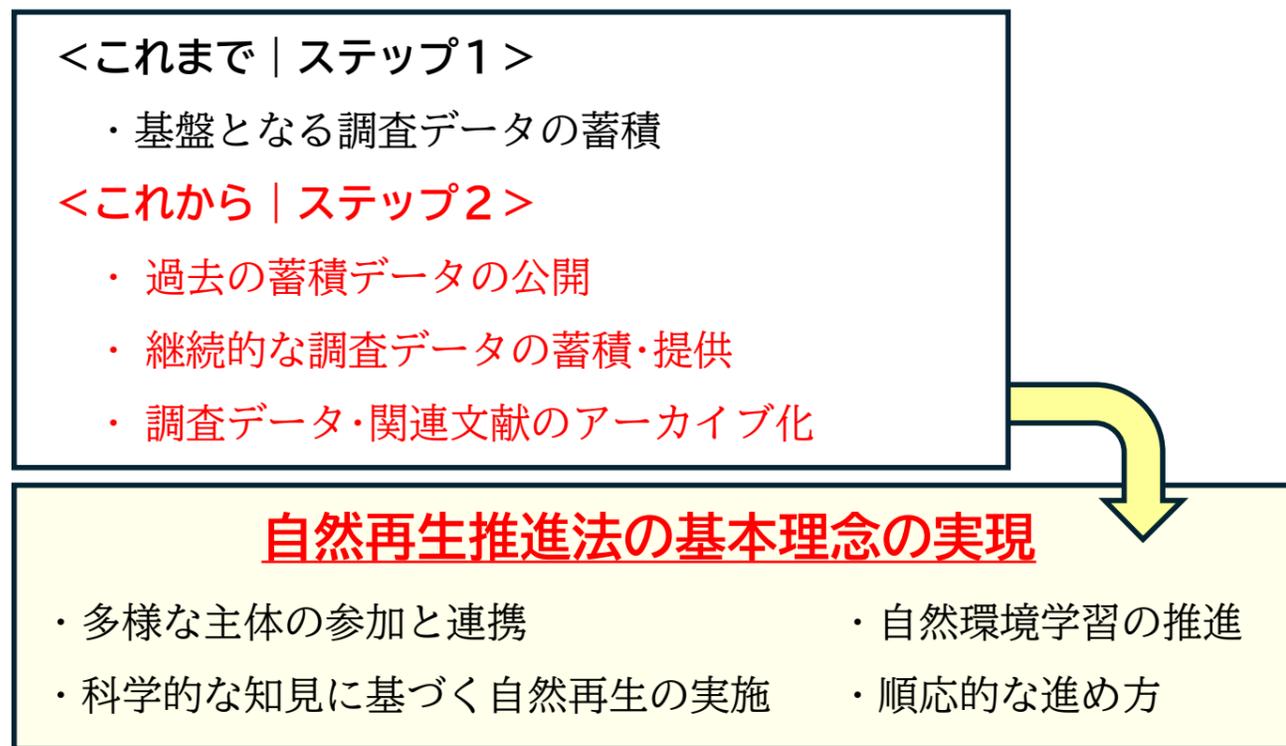


図 | 5年間の確認種 渡り性の推移 (2021~2026)

1. 調査データに関する考え方

自然再生推進法の基本的理念	多様な主体の参加と連携、科学的な知見に基づく自然再生の実施、順応的な進め方、自然環境学習の推進
当協議会の目標	「巴川流域麻機遊水地自然再生全体構想(H19.3)」、「麻機遊水地保全活用行動計画 第2版(R6.3)」
取組みの方向性	<ステップ1> 調査データの蓄積 ⇒ <ステップ2> 調査データの公開

2. 調査のデータの公開による自然再生の推進



(1)生物・植物調査

①生物・植物調査

<ステップ1>

遊水地に生息する鳥類、昆虫類、魚類、両生爬虫類、哺乳類等の生物調査、及び植物調査を行い、遊水地の自然環境を把握する。

<ステップ2>

遊水地に生息する生物の把握を行い、必要に応じその保全対策とその駆除対策を実施する。

②データの公開

<ステップ1>

調査データの利活用、科学的知見からの評価・検証を促進するため、データ公開フォーマットを整備し、これまで協議会で蓄積してきた調査データを公開する。

<ステップ2>

今後の調査データや協議会委員の各取組みの結果の公表を行う。

行動計画における位置づけ

3. 公開形式

データ区分	公開方針	公開形式	予定
過去の調査業務報告書	原本データを公開（個人情報・直近の希少種分布などは除く）	報告書（PDFなど）	2025年度
各分野に関する基礎情報	専門委員へ相談して編集・公開	適宜	2026年度以降
取組みに関するデータ	取組み実施者と相談して編集・公開	適宜	随時
関連文献・資料	麻機に関する本・資料・論文などを紹介	掲載WebページのURL	随時

調査データの公開について

4. 2025年度公開データ一覧（調査報告書）

年度	帰属	ジャンル	資料名
2025	麻機遊水地保全活用推進協議会	植物	令和7年度 麻委第3号 麻機遊水地植生調査業務委託 令和7年度 麻委第3号 麻機遊水地植生調査業務委託_資料編
2024	麻機遊水地保全活用推進協議会	植物	令和6年度 麻委第3号 麻機遊水地植生調査業務委託 令和6年度 麻委第3号 麻機遊水地植生調査業務委託_資料編
2023	麻機遊水地保全活用推進協議会	植物	令和5年度 麻委第2号 麻機遊水地植生調査業務委託 令和5年度 麻委第2号 麻機遊水地植生調査業務委託_資料編
2022	麻機遊水地保全活用推進協議会	植物	令和4年度 麻委第2号 麻機遊水地植生調査業務委託
2020	麻機遊水地保全活用推進協議会	植物	令和2年度 麻委第2号 麻機遊水地植生調査業務委託 令和2年度 麻委第2号 麻機遊水地植生調査業務委託_資料編
2018	麻機遊水地保全活用推進協議会	植物	平成30年度 麻委第3号 麻機遊水地植生調査業務
2014	麻機遊水地保全活用推進協議会	魚類	麻機遊水地1工区魚類調査 報告書
2012	静岡市緑地政策課	水質・地質	平成24年度 緑委第2号 あさはた緑地整備計画に伴う水分調査業務 平成24年度 緑委第2号 あさはた緑地整備計画に伴う水分調査業務（その2）
2011	静岡市緑地政策課	公園	平成23年度 緑委第5号あさはた緑地ワークショップ運営業務 ワークショップ報告書
2009	静岡県静岡土木事務所河川改良課	植物	平成21年度〔第20-K2456-01号〕二級河川巴川(麻機遊水地)総合治水対策特定河川に伴う自然環境調査業務委託(植物調査)
2007	静岡県静岡土木事務所河川改良課	植物	平成19年度〔第19-K2455-01号〕二級河川巴川(麻機遊水地第1工区)総合治水対策特定河川工事に伴う調査業務委託(植生調査)
2005	静岡県静岡土木事務所河川改良課	歴史文化	平成17年度〔第17-K1510-01号〕二級河川巴川(麻機遊水地)河川調査に伴う風土・史跡調査業務委託
2004	静岡県静岡土木事務所河川改良課	魚類・保全計画	平成16年度〔第16-K2455-01号〕二級河川巴川(麻機遊水地)総合治水対策特定河川に伴う自然環境調査業務委託
		河道・植物・魚類・鳥類	平成16年度〔第16-K2455-01号〕二級河川巴川総合治水対策特定河川に伴う自然環境調査業務委託(その2)
2003	静岡県静岡土木事務所河川改良課	植物・昆虫・魚類	平成15年度〔第15-K2455-01号〕二級河川巴川(麻機遊水地)総合治水対策特定河川工事に伴う自然環境モニタリング調査業務委託
		両生類・爬虫類	
2002	静岡県静岡土木事務所河川改良課	植物・魚類・昆虫	平成14年度〔第14-K2455-01号〕二級河川巴川(麻機遊水地)総合治水対策特定河川工事に伴う環境調査業務委託(その1)
		底生動物・保全計画	
2000	静岡県静岡土木事務所河川改良課	植物・魚類・昆虫 両生類・爬虫類 鳥類・保全計画	平成12年度〔第12-K2480-01号〕二級河川巴川(麻機遊水地)総合治水対策特定河川工事に伴う環境調査業務委託(その1)
1999	静岡県静岡土木事務所河川改良課	植物・昆虫	平成11年度〔第11-K2461-01号〕二級河川巴川(麻機遊水地)下水道関連特定治水施設整備(総合治水)工事に伴う動植物実態調査業務委託
		鳥類・水生動物	
1996	静岡県静岡土木事務所河川改良課	植物・魚類	平成8年度〔第08-K3000-01号〕二級河川巴川(麻機遊水地)河川改良に伴う生物調査業務委託

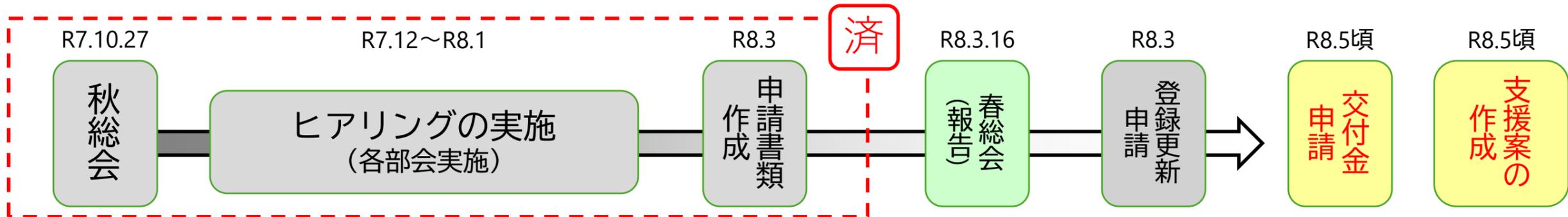


【QRコード】 公開Webページ
(協議会HP 自然環境調査データ)

自然共生サイト支援制度活用に向けた進捗状況について

1.進捗報告・今後の予定

- ・進捗：『自然共生サイト登録更新』の申請書類作成まで完了
- ・今後の予定：登録更新申請・支援制度活用に向けた詳細な内容の検討



参考：前回総会（第21回）からの経緯

- ・協議会の課題解決に向けた取組みの一環として「民間連携の促進」や「自然共生サイトへの登録」を進めてきた。
- ・2026年度の『交付金（生物多様性保全推進支援事業）』および『支援者マッチング』への応募が可決。手続きを進めている。

表 | 協議会の抱える課題

項目	内容	
1 人材の確保	課題	・現場活動者の不足
	要因	・高齢化 ・新規の引込みが難しい
2 資金の確保	課題	・財源の不確実性
	要因	・行政予算への依存率大（税込減・予算削減）
3 技術支援の確保	課題	・より効果的・効率的な事業の推進
	要因	・新たな問題（外来種・陸域化など）の発生 ・事業継続に向けた改善（人材・資金不足の解消、気候変動への適応など）
4 普及啓発	課題	・遊水地の価値・魅力の認知度の向上
	要因	・発信媒体の変化 ・広報活動が現地活動の参加につなげられていない
5 協議会の自立	課題	・将来に続く事業の実施
	要因	・行政への依存率大（予算、運営）

資料 | 自然共生サイトの支援制度例

自然共生サイトのインセンティブ

- ①「支援証明書」**
自らが土地を有しない場合においても、企業等が自然共生サイトの質の維持・向上のために必要な支援をした際に「支援証明書」を発行する制度。本年8月から本格運用開始。支援マッチングも同時に開始。
国が支援実績を証明します
- ②「有識者マッチング制度」**
自然共生サイトの活動等について専門的助言を求める相談者（認定を目指す方や保全活動を行っている方）と、専門的な知識を持つ有識者を、マッチングする制度。
国が有識者を紹介します
- ③「生物多様性保全推進支援事業」**
増進活動実施計画及び連携増進活動実施計画の作成等の取組（補助率1/2）や、管理手法の改善や生物調査等の活動内容の向上のための取組（定額150万円まで）を支援。
国が交付金で支援します
- ④税制措置について（相続税・贈与税の評価減）**
連携増進活動実施計画の場合に結ぶことのできる「生物多様性維持協定」締結し、かつ一定の要件（20年以上等）を満たした場合、当該区域に係る相続税・贈与税の評価額を20%減額する措置を設けた。
相続税などが減額されます

その他、自然共生サイト検索ナビ（見える化システム）や各種技術的手法の提示なども実施。

引用：環境省作成資料(R7.10)

1. ヒアリングの目的・対象

- ・ 現場活動の**実施・継続**における課題や実情を把握する
- ・ 各部会から、主に野外で活動する4団体を対象に実施
(2025年12月～2026年1月)

2. ヒアリング結果

麻機湿原を保全する会 (自然再生部会)

保全活動の存続

- ・ 現場で活動する会員の減少 (高齢化)

遊水地の利用促進

- ・ 夏場に草木が繁茂し、堤防・管理道が歩けない
- ・ 散策道の橋が落ち、また草木に埋もれ利用できない
- ・ 景観保全と魅力創出に向けて、木道の整備ルートは相談したい
- ・ 増えてきた利用者を各工区で取合うようにはしたくない
それぞれに異なる魅力を持てるような整備・活動が望まれる

活動の情報発信・共有・勧誘

- ・ 新規会員の募集・定着・育成

バーテル麻機部会 (バーテル麻機部会)

医療福祉施設との連携強化

- ・ 行動計画における福祉の記述が少なく、活動を説明しづらい
- ・ 病院との連携協力が途絶えてしまっている

遊水地の利用促進

- ・ 看板表記やバリエードの排除感が強い
- ・ トイレの汲み取り処理が間に合っていない

活動実施における支障

- ・ 地域の協力者の減少 (協力農家の高齢化)
- ・ 倉庫の配置

活動の情報発信・共有・連携

- ・ 協議会内の他団体の実施内容を知る場がなく「協議会」としての一体感がない
- ・ 協議会外の他団体の活動を知ることも大切だが、情報の入手が難しい

3. 支援・解決の方針

緊急性・実現性・共通性から優先度の高いものから実施・検討

- 緊急性：対策しなければ価値が損なわれてしまう課題
- 実現性：協議会で判断、予算確保、協力者調整が可能な課題
- 共通性：各活動で共通する課題・発生原因が共通の課題

麻機ウエットランドクラブ (自然再生部会)

保全対象の危機

- ・ 埋土種子の寿命が近い (半減期25年が経過)

遊水地の利用促進

- ・ 草木の繁茂で視界が悪く、迷っている人や体調不良の人に気が付けない

活動実施における支障

- ・ 熱中症リスクが上がっている
 - 気候変動で気温が上がっている
 - 繁茂した草木で風が通らず、熱がこもる
- ・ 駐車場・トイレ・倉庫が活動場所から遠く、活動の参加ハードルが高い

活動の情報発信・共有・勧誘

- ・ 新規会員の募集・定着・育成
- ・ 保全対象だけでなく「活動していること」自体の発信が必要

麻機遊水地柴揚げ漁保存会 (地域活性化部会)

継承活動の存続

- ・ イベント実施費用 (会場設営費など) の高騰
- ・ 漁獲数が減っている
 - 柴入れ箇所の池底掘りができていない
 - 魚の居場所が付近にない

活動の情報発信・勧誘

- ・ 人材の定着・後継者の育成
- ・ 広く浅い勧誘では、定着・継承にあまり効果がない
- ・ 「沼・生物に興味のある人」にアプローチできる場が必要

(歳入の部)

※R7.10総会
承認済

(単位:円、△印は減)

科目	令和8年度 当初予算(案)(A)	令和7年度 予算額(B)	比較 (A-B)	備考
負担金	14,000,000	14,000,000	0	
静岡県	7,000,000	7,000,000	0	
静岡市	7,000,000	7,000,000	0	
雑収入	1,000	1,000	0	(預金利息)
繰越金	813,878	260,378	553,500	
合計	14,814,878	14,261,378	553,500	

(歳出の部)

※R7.10総会
承認済

(単位:円、△印は減)

科目	令和8年度 当初予算(案)(A)	令和7年度 予算額(B)	比較 (A-B)	備考
協議会活動経費	268,600	385,600	△ 117,000	調査、資材にかかる経費
謝金	23,000	138,000	△ 115,000	調査報告回数×2回を想定
使用料及び 賃借料	12,000	14,000	△ 2,000	会議室使用料 (東部生涯学習センターを想定)
役務費	33,600	33,600	0	通信費
需用費	200,000	200,000	0	消耗品、修繕費等を想定
備品購入費	0	0	0	
補助金交付費	1,931,500	1,709,500	222,000	10団体分 1団体上限20万円
報酬費	391,000	414,000	△ 23,000	協議会委員への報償費
委託費	11,854,000	11,290,900	563,100	事務局運営補助委託費 遊水地植生調査委託費 協議会受付補助委託費
運営経費	200,000	200,000	0	振込手数料、サーバーレンタル料
予備費	169,778	261,378	△ 91,600	預金利息及び繰越金
合計	14,814,878	14,261,378	553,500	

※必要に応じて科目間の流用を認める

令和8年度 取組み計画

資料10

- ・「麻機遊水地保全活用行動計画 改訂2版」で定める「**実施項目**」（資料3(P7)および参考資料3を参照)を継続。
- ・協議会会員に実施したヒアリング(資料8(P41)参照)を基に下記3項目を「**優先順位・実現性の高いもの**」として実施・対応していく。

表. ヒアリングを基に実施していく実施項目

実施内容	理由	実施方法
活動内容 発表会(案) の開催	<p>○ 共通性：情報共有・発信、担い手の確保</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新規会員の勧誘 ・麻機遊水地利用者への活動内容の紹介 ・協議会内の団体同士の情報共有・連携強化 ・協議会外の団体との交流・連携強化 ・既存会員・後継者の育成 	<p>世代・立場・所属を越えた 情報交換・交流</p> <p>↓</p> <p>活動の輪の広がり 新たな活動のヒント</p> <p>協議会事務局で企画・運営</p> <p>協議会内外の団体に 参加・協力の募集</p>
広域的な 湿地攪乱	<p>○ 緊急性：埋土種子の寿命更新</p> <ul style="list-style-type: none"> ・埋土種子は麻機の自然再生の要(かなめ) ・約25年で半減期(遊水地概成から約25年経過) ・現状は局所的な寿命更新しかできていない <p>○ 実現性：自然共生サイト支援制度(交付金)の活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実施には計画と予算が必要 ・予算に関する支援制度の活用を見込める 	<p>計画 攪乱場所・手法の選定</p> <p>↓</p> <p>実施 攪乱・埋土種子の更新</p> <p>↓</p> <p>保全ポテンシャルの存続</p> <p>自然共生サイト支援制度</p> <p>「生物多様性保全推進支援事業 (交付金)」の採択を目指す</p>
夏秋除草の 支援者の募集	<p>○ 共通性：繁茂する草木</p> <ul style="list-style-type: none"> ・夏秋に堤防・管理道・園路が歩けなくなる ・視界の悪さで、迷いやすい、立ち入るのが怖い雰囲気 ・熱中症リスクがあがる(風が通らない) ・河川維持管理では、予算制約上、年1回除草が限界 <p>○ 実現性：自然共生サイト支援制度(マッチング)の活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実施には支援者への売り込みが必要 ・マッチングに関する支援制度の活用を見込める 	<p>募集告知の作成 何に困っているのか？ 支援のインセンティブは？ 具体的に何をすればよい？</p> <p>↓</p> <p>夏秋除草の実現</p> <p>自然共生サイト支援制度</p> <p>「支援者マッチング」の 活用を目指す</p>

【お知らせ】 麻機遊水地で『火入れ』を行います

麻機遊水地の効率的・効果的な環境改善や維持管理に向けて、『火入れ』（冬季の枯れヨシ焼き）を行います。

消防局の協力のもと、安全に配慮して実施しますのでご理解とご協力をよろしくお願いたします。



麻機遊水地で実施した『火入れ』の様子



目的

遊水地の維持管理・環境改善

今回は、乾燥注意報により中止した火入れ（1/25 予定）の振替えになります

日程

2026年3月20日（金）9時～12時頃（雨天の場合は3月28日（土））

場所

麻機遊水地第3工区内（静岡市葵区牛田）

※火入れに関する安全管理方針

- ・ 延焼を防ぐ「防火帯」を設置、消火器や消火スタッフを配置して実施します。
- ・ 強風注意報、乾燥注意報又は火災警報が発令された場合には、中止します。
- ・ 火入れの途中で各注意報や警報が発令された場合にも、速やかに中止します。
- ・ 河川や森林の各管理者のほか、警察や消防署に届け出を行っています。
- ・ 風向きによっては黒い灰が飛散する場合がありますが、引火の危険はありません。

※周辺にお住まいのかたへのお願い

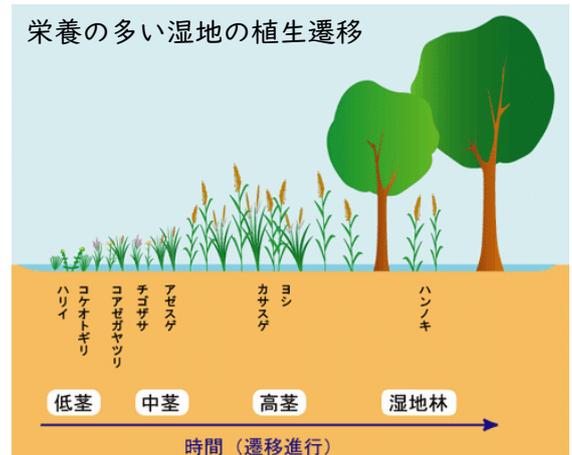
- ・ **9時30分頃から「火入れ」を実施します。**煙などが発生するため、お手数をおかけしますが、「家の窓を閉める」、「洗濯物を外に干さない」などのご対応をお願いいたします。

コラム：どうして『火入れ』をするの？

麻機遊水地は、水と栄養分が豊富なため植物が育ちやすく、時間が経つにつれて森林が発達します（植生遷移といいます）。

しかし遊水地が樹木に覆われてしまうと、水辺や草原に暮らす生きものが消えてしまったり、治水機能に悪影響を与えたりすることもあります。

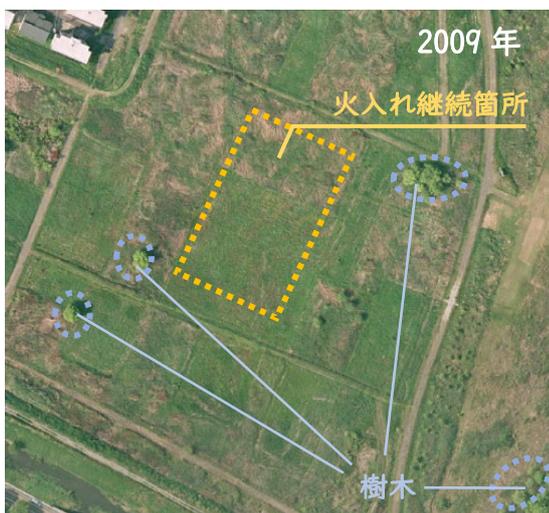
そこで当協議会では、『火入れ』をすることで植生遷移を抑え、効果的・効率的に治水機能の維持や自然環境の改善をできないか、実験をしています。



※画像引用：トヨタの森 HP https://www.toyota.co.jp/social_contribution/forest_of_toyota/eco_monitoring/sp/wetland_page1.html

麻機での効果① 樹林化の抑制

2018年～2024年まで火入れを続けている場所は、樹木のないオギ・ヨシ原になっています。



出典：国土地理院地図 電子国土 Web を基に作成

麻機での効果② 生きものや文化の保全

火入れ後の明るい環境やオギ・ヨシ原を利用する生きもの・文化が守られています。



春先に咲いたタネツケバナ オギ原に暮らすカヤネズミの巣

浅間神社の輪くぐりさん
(麻機のオギで作っています)

詳しいお知らせは公式 HP をチェック！

お問い合わせ先

麻機遊水地保全活用推進協議会 事務局
(昭和設計株式会社 担当：小池 祥平)

電話 054-252-1854 携帯電話 090-4404-3070

麻機協議会

検索